

(様式第 10)

国 循 発 総 21100501 号
令和 3 年 1 0 月 5 日

厚生労働大臣 殿

開設者名
国立研究開発法人国立循環器病研究センター
理事長 大津 欣也

国立循環器病研究センターの業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、令和 2 年度の業務に関して報告します。
記

1 開設者の住所及び氏名

| | |
|-----|------------------------------|
| 住 所 | 〒564-8565 大阪府吹田市岸部新町 6 番 1 号 |
| 氏 名 | 国立研究開発法人 国立循環器病研究センター |

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

| |
|-----------------------|
| 国立研究開発法人 国立循環器病研究センター |
|-----------------------|

3 所在の場所

| | |
|------------------------------|-------------------|
| 〒564-8565 大阪府吹田市岸部新町 6 番 1 号 | 電話 (06) 6170-1070 |
|------------------------------|-------------------|

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

| |
|--|
| 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、有すべき診療科名すべてを標榜 |
| ②医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜 |

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

| | |
|----------------|----------------------|
| 内科 | ①有 ・ 無 |
| 内科と組み合わせた診療科名等 | |
| ①呼吸器内科 | 2消化器内科 |
| 5神経内科 | 6血液内科 |
| 9感染症内科 | 10アレルギー疾患内科またはアレルギー科 |
| | ③循環器内科 |
| | 4腎臓内科 |
| | 7内分泌内科 |
| | 8代謝内科 |
| | 11リウマチ科 |
| 診療実績 | |

(注) 1 「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「内科と組み合わせた診療科名等」欄において、標榜していない診療科がある場合、その診療科で提供される医療を、他の診療科で提供している旨を記載すること。

(2) 外科

| | |
|---------------|-----------|
| 外科 | (有) ・ 無 |
| 外科と組み合わせた診療科名 | |
| 1呼吸器外科 | 2消化器外科 |
| 5血管外科 | (6)心臓血管外科 |
| 3乳腺外科 | 7内分泌外科 |
| 4心臓外科 | 8小児外科 |
| 診療実績 | |

(注) 1 「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「診療実績」欄については、「外科」「呼吸器外科」「消化器外科」「乳腺外科」「心臓外科」「血管外科」「心臓血管外科」「内分泌外科」「小児外科」のうち、標榜していない科がある場合は、他の標榜科での当該医療の提供実績を記載すること（「心臓血管外科」を標榜している場合は、「心臓外科」「血管外科」の両方の診療を提供しているとして差し支えないこと）。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

| | | | | | | |
|----------|---------|---------|-----------|----------|----------|---------|
| (1)精神科 | (2)小児科 | (3)整形外科 | (4)脳神経外科 | (5)皮膚科 | (6)泌尿器科 | (7)産婦人科 |
| 8産科 | 9婦人科 | (10)眼科 | (11)耳鼻咽喉科 | (12)放射線科 | 13放射線診断科 | |
| 14放射線治療科 | (15)麻酔科 | 16救急科 | | | | |

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

| | |
|---------------|---------------|
| 歯科 | (有) ・ 無 |
| 歯科と組み合わせた診療科名 | |
| 1小児歯科 | 2矯正歯科 (3)口腔外科 |
| 歯科の診療体制 | |

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

| | | | |
|-----------------|--------------|-----------|----------|
| 1 循環器リハビリテーション科 | 2 病理診断科 | 3 小児循環器内科 | 4 小児心臓外科 |
| 5 腎臓内科・人工透析内科 | 6 糖尿病・脂質代謝内科 | 7 循環器救急科 | 8 移植外科 |
| 9 移植内科 | 10 心臓血管内科 | 11 脳血管内科 | 12 脳神経内科 |
| 13 | 14 | 15 | 16 |
| 17 | 18 | 19 | 20 |
| 21 | | | |

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

| 精 神 | 感染症 | 結 核 | 療 養 | 一 般 | 合 計 |
|-----|-----|-----|-----|-------|-------|
| 床 | 床 | 床 | 床 | 550 床 | 550 床 |

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

| 職 種 | 常 勤 | 非常勤 | 合 計 | 職 種 | 員 数 | 職 種 | 員 数 |
|---------|------|------|--------|-----------|-----|-------------|------|
| 医 師 | 151人 | 135人 | 257.8人 | 看 護 補 助 者 | 24人 | 診療エックス線技師 | 人 |
| 歯 科 医 師 | 1人 | 1人 | 1.8人 | 理 学 療 法 士 | 21人 | 臨床検査技師 | 1人 |
| 薬 剤 師 | 39人 | 3人 | 41.4人 | 作 業 療 法 士 | 5人 | 衛生検査技師 | 39人 |
| 保 健 師 | 人 | 3人 | 2.1人 | 視 能 訓 練 士 | 1人 | そ の 他 | 人 |
| 助 産 師 | 24人 | 人 | 24人 | 義 肢 装 具 士 | 人 | あん摩マッサージ指圧師 | 人 |
| 看 護 師 | 674人 | 13人 | 684.1人 | 臨 床 工 学 士 | 28人 | 医療社会事業従事者 | 6人 |
| 准 看 護 師 | 人 | 人 | 人 | 栄 養 士 | 人 | その他の技術員 | 28人 |
| 歯科衛生士 | 1人 | 1人 | 1.7人 | 歯 科 技 工 士 | 人 | 事 務 職 員 | 189人 |
| 管理栄養士 | 10人 | 5人 | 14.0人 | 診療放射線技師 | 48人 | そ の 他 の 職 員 | 170人 |

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

| 専門医名 | 人 数 | 専門医名 | 人 数 |
|-------------|-----|---------------|-----|
| 総合内科専門医 | 28人 | 眼 科 専 門 医 | 人 |
| 外 科 専 門 医 | 20人 | 耳鼻咽喉科専門医 | 人 |
| 精 神 科 専 門 医 | 人 | 放 射 線 科 専 門 医 | 6人 |
| 小 児 科 専 門 医 | 9人 | 脳神経外科専門医 | 8人 |
| 皮 膚 科 専 門 医 | 人 | 整 形 外 科 専 門 医 | 人 |
| 泌尿器科専門医 | 人 | 麻 酔 科 専 門 医 | 8人 |
| 産婦人科専門医 | 7人 | 救 急 科 専 門 医 | 人 |
| | | 合 計 | 86人 |

- (注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。
2 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (飯原 弘二) 任命年月日 令和 2年 4月 1日

平成30年4月より平成31年3月まで九州大学病院医療機器安全管理専門委員会委員長として医療安全管理者の業務を経験している。

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

| | 歯 科 等 以 外 | 歯 科 等 | 合 計 |
|------------------------|-----------|--------|---------|
| 1 日 当 たり 平 均 入 院 患 者 数 | 432.6 人 | 0 人 | 432.6 人 |
| 1 日 当 たり 平 均 外 来 患 者 数 | 611.7 人 | 25.2 人 | 636.9 人 |
| 1 日 当 たり 平 均 調 剤 数 | 1184.2 剤 | | |
| 必要医師数 | 84.65人 | | |
| 必要歯科医師数 | 2人 | | |
| 必要薬剤師数 | 15人 | | |
| 必要（准）看護師数 | 239人 | | |

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、前年度の各科別の入院患者延数(毎日の 24 時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、前年度の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、前年度の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要（准）看護師数については、医療法施行規則第二十二条の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

| 施 設 名 | 床面積 | 主要構造 | 設 備 概 要 | | | |
|----------------|----------------------------|--------------|------------------------------------|------|---------|------------|
| 集中治療室 | 1,211.69 m ² | 鉄筋コン クリート | 病 床 数 | 53 床 | 心 電 計 | ○・無 |
| | | | 人工呼吸装置 | ○・無 | 心細動除去装置 | ○・無 |
| | | | その他の救急蘇生装置 | ○・無 | ペースメーカー | ○・無 |
| 無菌病室等 | [固定式の場合] | 床面積 | 81.14 m ² | | 病床数 | 3 床 |
| | [移動式の場合] | 台 数 | 台 | | | |
| 医 薬 品 情報管理室 | [専用室の場合] | 床 積 | 49.73 m ² | | | |
| | [共用室の場合] | 共用する室名 | | | | |
| 化学検査室 | 396.08m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 全自動臨床検査システム、尿分析装置 | | | |
| 細菌検査室 | 173.95m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) PCR検査システム、パルスフィールド、電気泳動システム | | | |
| 病理検査室 | 174.85m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 電気泳動装置、自動染色装置 | | | |
| 病理解剖室 | 47.30m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 電子顕微鏡、超低温フリーザー | | | |
| 研 究 室 | 192.16m ² | 鉄筋コンクリート | (主な設備) SPECT/CT、タンパク質ペプチド質量分析装置 | | | |
| 講 義 室 | 691.72m ² | 鉄筋コンクリート | 室数 | 3 室 | 収容定員 | 504 人 |
| 図 書 室 | 59.41m ² | 鉄筋コンクリート | 室数 | 1 室 | 蔵 書 数 | 10,000 冊程度 |

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

| | | | | |
|------|-----------------------|--------|------|----------|
| 紹介率 | | 81.2 % | 逆紹介率 | 122.6 % |
| 算出根拠 | A：紹介患者の数 | | | 6,365 人 |
| | B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | | | 12,730 人 |
| | C：救急用自動車によって搬入された患者の数 | | | 2,066 人 |
| | D：初診の患者の数 | | | 10,382 人 |

- (注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。
- 3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 利害関係 | 委員の要件 該当状況 |
|-------|---------------------|----------------|----------------------|-----------------|---------------|
| 後 信 | 九州大学病院 | 今年度はまだ未開催のため未定 | 医療に係る安全管理に関する識見を有する者 | 有・ 無 | 1 |
| 柴田 利彦 | 大阪市立大学大学院 | | 医療に係る安全管理に関する識見を有する者 | 有・ 無 | 1 |
| 小島 崇宏 | 大阪 A&M 法律事務所 | | 法律に関する識見を有する者 | 有・ 無 | 1 |
| 國子 克雄 | 心を守る会 (患者代表) | | 医療を受ける者の代表 | 有 ・無 | 2 |
| 巽 英介 | 国立循環器病研究センター副 OIC 長 | | 医療安全部外の立場からの監査 | 有 ・無 | 3 |

- (注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。
1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
 2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
 3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

| | |
|---------------|-----------------|
| 委員名簿の公表の有無 | 有 ・無 |
| 委員の選定理由の公表の有無 | 有 ・無 |
| 公表の方法 | |
| 病院ホームページにて公表 | |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先 進 医 療 の 種 類 | 取扱患者数 |
|---------------|-------|
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先 進 医 療 の 種 類 | 取扱患者数 |
|--|-------|
| 肺動脈自立神経叢徐神経療法 肺高血圧症(薬物療法に抵抗性を有するものに限る。) | 4人 |
| 偽腔拡大に対する血管内治療、大動脈解離(術後に虚腔が拡大したものに限る。) | 4人 |
| 遺伝子組換え活性型血液凝固第Ⅶ因子製剤静脈内投与療法 脳出血(発症から二時間以内のものに限る。) | 0人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注)1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注)2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| | | | |
|---|--|-------|-----|
| 医療技術名 | 脳梗塞急性期患者を対象としたJTR-161による細胞治療 | 取扱患者数 | 6人 |
| 当該医療技術の概要 他家ヒト(同種) 歯髄由来幹細胞からなる再生医療等製品により神経保護作用、免疫調整作用等により、 脳梗塞急性期への治療効果が期待される。 | | | |
| 医療技術名 | IASDシステムIIによる心不全患者における上昇した左心房圧の低減 | 取扱患者数 | 6人 |
| 当該医療技術の概要 左室駆出率が保たれた、または中程度の心不全患者において、標準的なカテーテル法によって心房中隔にインプラントを 留置し、永久的にシャントを形成することで左房→右房の血流を実現し、左房圧を低減することで心不全症状の軽減や QOLの改善をはかる。 | | | |
| 医療技術名 | 癒着防止材「BAX602」を用いた体外設置型補助人工心臓装着後の心臓大血管周囲癒着防止 | 取扱患者数 | 14人 |
| 当該医療技術の概要 心原性循環不全に対して開胸下に補助人工心臓装着術 を施行する患者を対象として、BAX602により 心臓・大血管表面散布により癒着防止をはかる。 | | | |
| 医療技術名 | 人工心肺システム「BR13030」を用いた急性重症心不全／急性重症呼吸不全患者に対する補助循環法 | 取扱患者数 | 8人 |
| 当該医療技術の概要 重篤な急性重症心不全および急性重症呼吸不全で、薬物治療や人工呼吸器等のみでは高い死亡率が想定される 症例に対して、短中期的に循環補助による生命維持を目的として使用する人工心肺回路セットを使用する。 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾 患 名 | 患者数 | | 疾 患 名 | 患者数 |
|----|----------------------------|-----|-----|----------------------|------|
| 1 | 球脊髄性筋萎縮症 | 1 | 56 | ベーチェット病 | 19 |
| 2 | 筋萎縮性側索硬化症 | 2 | 57 | 特発性拡張型心筋症 | 1410 |
| 3 | 脊髄性筋萎縮症 | 2 | 58 | 肥大型心筋症 | 823 |
| 4 | 原発性側索硬化症 | 2 | 59 | 拘束型心筋症 | 75 |
| 5 | 進行性核上性麻痺 | 8 | 60 | 再生不良性貧血 | 7 |
| 6 | パーキンソン病 | 206 | 61 | 自己免疫性溶血性貧血 | 9 |
| 7 | 大脳皮質基底核変性症 | 8 | 62 | 発作性夜間ヘモグロビン尿症 | |
| 8 | ハンチントン病 | | 63 | 特発性血小板減少性紫斑病 | 3 |
| 9 | 神経有棘赤血球症 | | 64 | 血栓性血小板減少性紫斑病 | 2 |
| 10 | シャルコー・マリー・トゥース病 | 1 | 65 | 原発性免疫不全症候群 | 2 |
| 11 | 重症筋無力症 | 11 | 66 | IgA 腎症 | 88 |
| 12 | 先天性筋無力症候群 | | 67 | 多発性嚢胞腎 | 44 |
| 13 | 多発性硬化症／視神経脊髄炎 | 8 | 68 | 黄色靱帯骨化症 | 13 |
| 14 | 慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー | 2 | 69 | 後縦靱帯骨化症 | 13 |
| 15 | 封入体筋炎 | 2 | 70 | 広範脊柱管狭窄症 | |
| 16 | クロー・深瀬症候群 | | 71 | 特発性大腿骨頭壊死症 | 3 |
| 17 | 多系統萎縮症 | 6 | 72 | 下垂体性ADH分泌異常症 | 13 |
| 18 | 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。) | 5 | 73 | 下垂体性TSH分泌亢進症 | 3 |
| 19 | ライソゾーム病 | | 74 | 下垂体性PRL分泌亢進症 | 22 |
| 20 | 副腎白質ジストロフィー | | 75 | クッシング病 | 13 |
| 21 | ミトコンドリア病 | 4 | 76 | 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症 | |
| 22 | もやもや病 | 495 | 77 | 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症 | 11 |
| 23 | プリオン病 | 1 | 78 | 下垂体前葉機能低下症 | |
| 24 | 亜急性硬化性全脳炎 | | 79 | 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 18 |
| 25 | 進行性多巣性白質脳症 | | 80 | 甲状腺ホルモン不応症 | |
| 26 | HTLV-1関連脊髄症 | 1 | 81 | 先天性副腎皮質酵素欠損症 | |
| 27 | 特発性基底核石灰化症 | 8 | 82 | 先天性副腎低形成症 | 2 |
| 28 | 全身性アミロイドーシス | 24 | 83 | アジソン病 | 9 |
| 29 | ウルリッヒ病 | | 84 | サルコイドーシス | 64 |
| 30 | 遠位型ミオパチー | | 85 | 特発性間質性肺炎 | 122 |
| 31 | ベスレムミオパチー | | 86 | 肺動脈性肺高血圧症 | 298 |
| 32 | 自己食空胞性ミオパチー | | 87 | 肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症 | 31 |
| 33 | シュワルツ・ヤンベル症候群 | | 88 | 慢性血栓塞栓性肺高血圧症 | 299 |
| 34 | 神経線維腫症 | 7 | 89 | リンパ脈管筋腫症 | 5 |
| 35 | 天疱瘡 | 1 | 90 | 網膜色素変性症 | 9 |
| 36 | 表皮水疱症 | | 91 | バッド・キアリ症候群 | 1 |
| 37 | 膿疱性乾癬(汎発型) | 2 | 92 | 特発性門脈圧亢進症 | 9 |
| 38 | スティーヴンス・ジョンソン症候群 | 3 | 93 | 原発性胆汁性肝硬変 | 53 |
| 39 | 中毒性表皮壊死症 | 2 | 94 | 原発性硬化性胆管炎 | 1 |
| 40 | 高安動脈炎 | 48 | 95 | 自己免疫性肝炎 | 10 |
| 41 | 巨細胞性動脈炎 | 14 | 96 | クローン病 | 4 |
| 42 | 結節性多発動脈炎 | 6 | 97 | 潰瘍性大腸炎 | 52 |
| 43 | 顕微鏡的多発血管炎 | 3 | 98 | 好酸球性消化管疾患 | 1 |
| 44 | 多発血管炎性肉芽腫症 | 1 | 99 | 慢性特発性偽性腸閉塞症 | |
| 45 | 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 | 1 | 100 | 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症 | |
| 46 | 悪性関節リウマチ | 2 | 101 | 腸管神経節細胞減少症 | |
| 47 | パージャール病 | 29 | 102 | ルビンシュタイン・ティビ症候群 | |
| 48 | 原発性抗リン脂質抗体症候群 | 45 | 103 | CFC症候群 | |
| 49 | 全身性エリテマトーデス | 83 | 104 | コステロ症候群 | |
| 50 | 皮膚筋炎／多発性筋炎 | 31 | 105 | チャージ症候群 | |
| 51 | 全身性強皮症 | 18 | 106 | クリオピリン関連周期熱症候群 | |
| 52 | 混合性結合組織病 | 29 | 107 | 全身型若年性特発性関節炎 | |
| 53 | シェーグレン症候群 | 84 | 108 | TNF受容体関連周期性症候群 | |
| 54 | 成人スチル病 | 4 | 109 | 非典型溶血性尿毒症症候群 | 2 |
| 55 | 再発性多発軟骨炎 | 2 | 110 | ブラウ症候群 | |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| 疾患名 | 患者数 | 疾患名 | 患者数 |
|--------------------------------|-----|------------------------|-----|
| 111 先天性ミオパチー | 3 | 161 家族性良性慢性天疱瘡 | |
| 112 マリネスコ・シェーグレン症候群 | | 162 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。) | 2 |
| 113 筋ジストロフィー | 28 | 163 特発性後天性全身性無汗症 | |
| 114 非ジストロフィー性ミオトニー症候群 | | 164 眼皮膚白皮症 | |
| 115 遺伝性周期性四肢麻痺 | | 165 肥厚性皮膚骨膜炎 | 1 |
| 116 アトピー性脊髄炎 | | 166 弾性線維性仮性黄色腫 | |
| 117 脊髄空洞症 | 4 | 167 マルフアン症候群 | 319 |
| 118 脊髄髄膜瘤 | 1 | 168 エーラス・ダンロス症候群 | 23 |
| 119 アイザックス症候群 | | 169 メンケス病 | |
| 120 遺伝性ジストニア | | 170 オクシピタル・ホーン症候群 | |
| 121 神経フェリチン症 | 8 | 171 ウィルソン病 | 7 |
| 122 脳表ヘモジデリン沈着症 | 4 | 172 低ホスファターゼ症 | |
| 123 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性白質脳症 | | 173 VATER症候群 | 1 |
| 124 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優性脳動脈症 | | 174 那須・ハコラ病 | |
| 125 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性びまん性白質脳症 | | 175 ウィーバー症候群 | |
| 126 ペリー症候群 | 26 | 176 コフィン・ローリー症候群 | |
| 127 前頭側頭葉変性症 | | 177 有馬症候群 | |
| 128 ビッカーstaff脳幹脳炎 | | 178 モワット・ウィルソン症候群 | |
| 129 痙攣重症型(二相性)急性脳症 | 1 | 179 ウィリアムズ症候群 | |
| 130 先天性無痛無汗症 | 1 | 180 ATR-X症候群 | |
| 131 アレキサンダー病 | | 181 クルーゾン症候群 | |
| 132 先天性核上性球麻痺 | 2 | 182 アペール症候群 | |
| 133 メビウス症候群 | | 183 ファイファー症候群 | |
| 134 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群 | | 184 アントレー・ピクスラー症候群 | |
| 135 アイカルディ症候群 | | 185 コフィン・シリス症候群 | |
| 136 片側巨脳症 | | 186 ロスムンド・トムソン症候群 | |
| 137 限局性皮質異形成 | | 187 歌舞伎症候群 | |
| 138 神経細胞移動異常症 | | 188 多脾症候群 | 30 |
| 139 先天性大脳白質形成不全症 | | 189 無脾症候群 | 71 |
| 140 ドラベ症候群 | | 190 鰓耳腎症候群 | |
| 141 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん | | 191 ウェルナー症候群 | |
| 142 ミオクロニー欠伸てんかん | | 192 コケイン症候群 | |
| 143 ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん | | 193 プラダー・ウィリ症候群 | |
| 144 レノックス・ガストー症候群 | | 194 ソトス症候群 | |
| 145 ウエスト症候群 | 1 | 195 ヌーナン症候群 | |
| 146 大田原症候群 | | 196 ヤング・シンプソン症候群 | |
| 147 早期ミオクロニー脳症 | | 197 1p36欠失症候群 | 20 |
| 148 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん | | 198 4p欠失症候群 | |
| 149 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群 | | 199 5p欠失症候群 | |
| 150 環状20番染色体症候群 | | 200 第14番染色体父親性ダイソミー症候群 | |
| 151 ラスムッセン脳炎 | | 201 アンジェルマン症候群 | 20 |
| 152 PCDH19関連症候群 | | 202 スミス・マギニス症候群 | |
| 153 難治頻回部分発作重症型急性脳炎 | | 203 22q11.2欠失症候群 | 18 |
| 154 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん性脳症 | | 204 エマヌエル症候群 | |
| 155 ランドウ・クレフナー症候群 | | 205 脆弱X症候群関連疾患 | |
| 156 レット症候群 | | 206 脆弱X症候群 | |
| 157 スタージ・ウェーバー症候群 | 1 | 207 総動脈幹遺残症 | 31 |
| 158 結節性硬化症 | 2 | 208 修正大血管転位症 | 144 |
| 159 色素性乾皮症 | | 209 完全大血管転位症 | 258 |
| 160 先天性魚鱗癬 | | 210 単心室症 | 182 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾 患 名 | 患者数 | | 疾 患 名 | 患者数 |
|-----|------------------------------|-----|-----|----------------------------|-----|
| 211 | 左心低形成症候群 | 77 | 259 | レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症 | |
| 212 | 三尖弁閉鎖症 | 116 | 260 | シトステロール血症 | |
| 213 | 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症 | 213 | 261 | タンジール病 | |
| 214 | 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症 | 8 | 262 | 原発性高カイロミクロン血症 | 1 |
| 215 | ファロー四徴症 | 613 | 263 | 脳腫黄色腫症 | |
| 216 | 両大血管右室起始症 | 77 | 264 | 無 β リポタンパク血症 | |
| 217 | エプスタイン病 | 91 | 265 | 脂肪萎縮症 | |
| 218 | アルポート症候群 | | 266 | 家族性地中海熱 | |
| 219 | ギャロウェイ・モワト症候群 | | 267 | 高IgD症候群 | |
| 220 | 急速進行性糸球体腎炎 | 19 | 268 | 中條・西村症候群 | |
| 221 | 抗糸球体基底膜腎炎 | 6 | 269 | 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群 | |
| 222 | 一次性ネフローゼ症候群 | 1 | 270 | 慢性再発性多発性骨髄炎 | |
| 223 | 一次性膜性増殖性糸球体腎炎 | 3 | 271 | 強直性脊椎炎 | |
| 224 | 紫斑病性腎炎 | 9 | 272 | 進行性骨化性線維異形成症 | |
| 225 | 先天性腎性尿崩症 | | 273 | 肋骨異常を伴う先天性側弯症 | |
| 226 | 間質性膀胱炎(ハンナ型) | 2 | 274 | 骨形成不全症 | 3 |
| 227 | オスラー病 | 13 | 275 | タナトフォリック骨異形成症 | |
| 228 | 閉塞性細気管支炎 | 3 | 276 | 軟骨無形成症 | |
| 229 | 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性) | | 277 | リンパ管腫症/ゴーハム病 | |
| 230 | 肺胞低換気症候群 | 7 | 278 | 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変) | |
| 231 | α 1-アンチトリプシン欠乏症 | 2 | 279 | 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変) | |
| 232 | カーニー複合 | | 280 | 巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変) | |
| 233 | ウォルフラム症候群 | | 281 | クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群 | |
| 234 | ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。) | | 282 | 先天性赤血球形成異常性貧血 | |
| 235 | 副甲状腺機能低下症 | 11 | 283 | 後天性赤芽球癆 | |
| 236 | 偽性副甲状腺機能低下症 | | 284 | ダイヤモンド・ブラックファン貧血 | 1 |
| 237 | 副腎皮質刺激ホルモン不応症 | | 285 | ファンconi貧血 | 1 |
| 238 | ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症 | 3 | 286 | 遺伝性鉄芽球性貧血 | |
| 239 | ビタミンD依存性くる病/骨軟化症 | 2 | 287 | エプスタイン症候群 | |
| 240 | フェニルケトン尿症 | | 288 | 自己免疫性出血病XIII | |
| 241 | 高チロシン血症1型 | | 289 | クローンカイト・カナダ症候群 | 1 |
| 242 | 高チロシン血症2型 | | 290 | 非特異性多発性小腸潰瘍症 | |
| 243 | 高チロシン血症3型 | | 291 | ヒルシュスブルング病(全結腸型又は小腸) | 4 |
| 244 | メーブルシロップ尿症 | | 292 | 総排泄腔外反症 | |
| 245 | プロピオン酸血症 | | 293 | 総排泄腔遺残 | |
| 246 | メチルマロン酸血症 | | 294 | 先天性横隔膜ヘルニア | |
| 247 | イソ吉草酸血症 | | 295 | 乳幼児肝巨大血管腫 | |
| 248 | グルコーストランスporter1欠損症 | | 296 | 胆道閉鎖症 | 1 |
| 249 | グルタル酸血症1型 | | 297 | アラジール症候群 | 3 |
| 250 | グルタル酸血症2型 | | 298 | 遺伝性膀胱炎 | |
| 251 | 尿素サイクル異常症 | | 299 | 嚢胞性線維症 | |
| 252 | リジン尿性蛋白不耐症 | | 300 | IgG4関連疾患 | 25 |
| 253 | 先天性葉酸吸収不全 | 1 | 301 | 黄斑ジストロフィー | 9 |
| 254 | ポルフィリン症 | | 302 | レーベル遺伝性視神経症 | |
| 255 | 複合カルボキシラーゼ欠損症 | | 303 | アッシュヤー症候群 | |
| 256 | 筋型糖原病 | | 304 | 若年発症型両側性感音難聴 | 96 |
| 257 | 肝型糖原病 | | 305 | 遅発性内リンパ水腫 | |
| 258 | ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症 | 1 | 306 | 好酸球性副鼻腔炎 | |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾 患 名 | 患者数 | | 疾 患 名 | 患者数 |
|-----|----------------------------------|-----|-----|-------------------------------|-----|
| 307 | カナバン病 | | 319 | セピアブテリン還元酵素(SR)欠損症 | |
| 308 | 進行性白質脳症 | | 320 | 先天性グリコシルホスファチジルイノシトール(GPI)欠損症 | |
| 309 | 進行性ミオクローヌステんかん | 12 | 321 | 非ケトーシス型高グリシン血症 | |
| 310 | 先天異常症候群 | | 322 | β -ケトチオラーゼ欠損症 | |
| 311 | 先天性三尖弁狭窄症 | 116 | 323 | 芳香族L-アミノ酸脱炭酸酵素欠損症 | |
| 312 | 先天性僧帽弁狭窄症 | 11 | 324 | メチルグルタコン酸尿症 | |
| 313 | 先天性肺静脈狭窄症 | | 325 | 遺伝性自己炎症疾患 | |
| 314 | 左肺動脈右肺動脈起始症 | | 326 | 大理石骨病 | |
| 315 | ネイルパテラ症候群(爪膝蓋骨症候群)/L MX1B関連腎症 | | 327 | 特発性血栓症(遺伝性血栓性素因によるものに限る。) | |
| 316 | カルニチン回路異常症 | | 328 | 前眼部形成異常 | |
| 317 | 三頭酵素欠損症 | | 329 | 無虹彩症 | |
| 318 | シトリン欠損症 | | 330 | 先天性気管狭窄症 | 1 |
| | | | 331 | 特発性多中心性キャッスルマン病 | |
| | | | 332 | 膠様滴状角膜ジストロフィー | |
| | | | 333 | ハッチンソン・ギルフォード症候群 | |

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|------------------------------|-------------------|
| ・特定機能病院入院基本料 一般病棟 7 : 1 | ・ハイケアユニット入院医療管理料1 |
| ・超急性期脳卒中加算 | ・脳卒中ケアユニット入院医療管理料 |
| ・診療録管理体制加算1 | ・小児入院医療管理料2 |
| ・医師事務作業補助体制加算1 (25 : 1) | ・後発医薬品使用体制加算1 |
| ・急性期看護補助体制加算 25対1(看護補助者5割未満) | ・地域歯科診療支援病院歯科初診料 |
| ・看護職員夜間12対1配置加算1 | ・新生児治療回復室入院医療管理料 |
| ・重症者等療養環境特別加算 | ・新生児特定集中治療室管理料1 |
| ・無菌治療室管理加算1 | ・総合周産期特定集中治療室管理料 |
| ・栄養サポートチーム加算 | ・ |
| ・医療安全対策加算1 | ・ |
| ・感染防止対策加算1 | ・ |
| ・患者サポート体制充実加算 | ・ |
| ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算 | ・ |
| ・ハイリスク妊娠管理加算 | ・ |
| ・ハイリスク分娩管理加算 | ・ |
| ・病棟薬剤業務実施加算1 | ・ |
| ・病棟薬剤業務実施加算2 | ・ |
| ・入退院支援加算1 | ・ |
| ・認知症ケア加算1 | ・ |
| ・データ提出加算 | ・ |
| ・療養環境加算 | ・ |
| ・救急医療管理加算 | ・ |
| ・せん妄ハイリスク患者ケア加算 | ・ |
| ・排尿自立支援加算 | ・ |
| ・地域医療体制確保加算 | ・ |
| ・特定集中治療室管理料1 | ・ |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---|------------------------------------|
| ・小児科外来診療料 | ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト |
| ・糖尿病合併症管理料 | ・胎児心エコー法 |
| ・移植後患者指導管理料(臓器移植後) | ・ヘッドアップティルト試験 |
| ・糖尿病透析予防指導管理料 | ・神経学的検査 |
| ・乳腺炎重症化予防ケア・指導料 | ・画像診断管理加算1 |
| ・婦人科特定疾患治療管理料 | ・画像診断管理加算2 |
| ・心臓ペースメーカー指導管理料の注5に掲げる遠隔モニタリング加算 | ・ポジトロン断層撮影 |
| ・夜間休日救急搬送医学管理料の注3に掲げる救急搬送看護体制加算1 | ・ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影 |
| ・ハイリスク妊産婦連携指導料1 | ・CT撮影及びMRI撮影 |
| ・ニコチン依存症管理料 | ・小児鎮静化MRI撮影加算 |
| ・ハイリスク妊産婦共同管理料(Ⅱ) | ・冠動脈CT撮影加算 |
| ・外来排尿自立指導料 | ・心臓MRI撮影加算 |
| ・薬剤管理指導料 | ・血流予備量比コンピューター断層撮影 |
| ・医療機器安全管理料1 | ・無菌製剤処理料 |
| ・医療機器安全管理料2 | ・人工腎臓 |
| ・在宅植込型補助人工心臓(非拍動流型)指導管理料 | ・導入期加算1 |
| ・地域連携診療計画加算 | ・心大血管疾患リハビリテーション料(Ⅰ) |
| ・持続血糖測定器加算(間歇注入シリンジポンプと連動する持続血糖測定器を用いる場合)及び皮下連続式グルコース測定 | ・脳血管疾患等リハビリテーション料(Ⅰ) |
| ・遺伝学的検査 | ・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の休日加算1 |
| ・抗HLA抗体(スクリーニング検査)及び抗HLA抗体(抗体特異性同定検査) | ・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の時間外加算1 |
| ・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) | ・医科点数表第2章第9部処置の通則の5に掲げる処置の深夜加算1 |
| ・検体検査管理加算(Ⅰ) | ・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の休日加算1 |
| ・検体検査管理加算(Ⅳ) | ・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の時間外加算1 |
| ・遺伝カウンセリング加算 | ・医科点数表第2章第10部手術の通則の12に掲げる手術の深夜加算1 |
| ・国際標準検査管理加算 | ・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) |
| ・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 | ・経カテーテル大動脈弁置換術 |

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|--|-----------------|
| ・胸腔鏡下弁形成術 | ・凍結保存同種組織加算 |
| ・胸腔鏡下弁形成術(内視鏡手術用支援機器を用いる場合) | ・麻酔管理料(Ⅰ) |
| ・胸腔鏡下弁置換術 | ・麻酔管理料(Ⅱ) |
| ・経皮的僧帽弁クリップ術 | ・病理診断管理加算2 |
| ・経皮的中隔心筋焼灼術 | ・悪性腫瘍病理組織標本加算 |
| ・経皮的下肢動脈形成術 | ・クラウン・ブリッジ維持管理料 |
| ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 | ・同種クレオレシピテート作製術 |
| ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術(リードレスペースメーカー) | ・レーザー機器加算 |
| ・両心室ペースメーカー移植術(心筋電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(心筋電極の場合) | ・口腔粘膜処置 |
| ・両心室ペースメーカー移植術(経静脈電極の場合)及び両心室ペースメーカー交換術(経静脈電極の場合) | ・先天性代謝異常症検査 |
| ・植込型除細動器移植術(心筋リードを用いるもの)及び植込型除細動器交換術(心筋リードを用いるもの) | |
| ・植込型除細動器移植術(経静脈リードを用いるもの又は皮下植込型リードを用いるもの)、植込型除細動器交換術(その他のもの)及び経静脈電極除去術 | |
| ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(心筋電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(心筋電極の場合) | |
| ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術(経静脈電極の場合)及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術(経静脈電極の場合) | |
| ・大動脈バルーンパンピング法(IABP法) | |
| ・経皮的循環補助法(ポンプカテーテルを用いたもの) | |
| ・不整脈手術左心耳閉鎖術(経カテーテル的手術によるもの) | |
| ・補助人工心臓 | |
| ・小児補助人工心臓 | |
| ・植込型補助人工心臓(非拍動流型) | |
| ・同種心移植術 | |
| ・同種心肺移植術 | |
| ・CAD/CAM冠 | |
| ・歯科外来診療環境体制加算2 | |
| ・胎児胸腔・羊水腔シャント術 | |
| ・輸血管理料Ⅰ | |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類 | 施設基準等の種類 |
|----------|----------|
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

| | |
|-------------------------------------|---|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況 | ① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 1週間に1回程度 |
| 剖 検 の 状 況 | 剖検症例数 40 例 / 剖検率 20.0 % |

(注) 「症例検討会の開催頻度」及び「剖検の状況」欄には、前年度の実績を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|---|------------|---------------|------------|----------|---------------|
| 原発性高脂血症に関する調査研究 | 斯波 真理子 | 分子病態部 | 13,000,000 | 補 | 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 循環器病の縦断的な診療情報の収集、活用方法の検討のための研究 | 宮本恵宏 | OIC(OIC長) | 5,000,000 | 補 | 厚生労働省科学研究費補助金 |
| Precision medicineの確立に資する統合医療データベースの利活用に関する研究 | 飯原 弘二 | 病院(病院長) | 10,530,000 | 補 | 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 地域における循環器疾患発症及び重症化予防に対する取組の推進のための研究 | 宮本 恵宏 | OIC(OIC長) | 9,900,000 | 補 | 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 先天性心疾患を主体とする小児期発症の心血管難治性疾患の生涯にわたるQOL改善のための診療体制の構築と医療水準の向上に向けた総合的研究 | 白石 公 | 教育研修部 | 21,000,000 | 補 | 厚生労働省科学研究費補助金 |
| 生命時間と場を連携する細胞内在性のスプライシング時計による脳サイズ制御 | 森 雅樹 | 血管生理学部 | 4,145,645 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 心不全治療を目的としたミオシン軽鎖リン酸化を調節する低分子化合物の開発と臨床応用 | 北風 政史 | 臨床研究開発部 | 8,580,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 情報・形態イメージングによる左右非対称性形成機構の解明 | 望月 直樹 | 研究所(研究所長) | 8,840,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 鰓弓・側板中胚葉内の心臓前駆細胞発生を制御するエピジェネティック分子機構の解明 | 白井 学 | 創薬オミックス解析センター | 5,070,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 心血管形成・ヒト血管疾患に関与するシグナル伝達系の下流遺伝子群の意義 | 中川 修 | 分子生理部 | 5,200,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 心筋Na/Ca交換体の遺伝子異常がもたらす致死性不整脈症候群の新規分子病態 | 蒔田 直昌 | 研究所(副所長) | 4,940,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 脳卒中のLearning Healthcare Systemに関する研究 | 飯原 弘二 | 病院(病院長) | 3,380,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| ソフトな分子間相互作用が造影メカニズムとなる微細血管用高分子MRIプローブ | 馬原 淳 | 生体医工学部 | 5,070,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 患者フレンドリーな核酸医薬を実現する核酸経口剤化技術の新規基盤構築 | 斯波 真理子 | 分子病態部 | 5,850,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 胸部大血管および心室筋形成における細胞分化の分子機構 | 渡邊 裕介 | 分子生理部 | 5,200,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 連関する全臓器の恒常性変化を可視化する技術を利用した認知症の超早期診断法開発 | 山本 正道 | 研究推進支援部 | 5,460,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| Influence of non-vascular cells in accelerated coronary aging in diabetes | Pearson Ja | 心臓生理機能部 | 5,330,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 医療データとAI/Analytics融合による循環器疾患の発症・重症化予測 | 安田 聡 | 客員部長 | 7,540,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| アリルハイドロカーボン受容体シグナルによる肺動脈性肺高血圧症の病態形成機構 | 中岡 良和 | 血管生理学部 | 6,630,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 成熟心筋細胞の脱分化・増殖誘導機序の解明 | 菊地 和 | 再生医療部 | 11,960,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 経皮的心肺補助システムの臨床的課題解決に関する総合研究 | 巽 英介 | 副オープンイノベーション長 | 6,630,000 | 補 | 科学研究費補助金 |

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|---|-------------|-------------|-----------|----------|----------|
| 高齢者の脳卒中後嚥下障害の急性期診療アルゴリズム確立 | 猪原 匡史 | 脳神経内科部 | 9,230,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 分子・細胞・組織レベル同時計測に基づく再生心筋組織の収縮力の発現メカニズムの解明 | 神戸 裕介 | 生体医工学部 | 5,720,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 小口径合成人工血管の新生内膜誘導化修飾とミニブタ移植による開存化実証 | 山岡 哲二 | 生体医工学部 | 8,580,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 緊急時に対応可能な血中自己抗体の簡易除去システムの創製 | 姜 貞勲 | 生体医工学部 | 1,170,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 急性期脳卒中および脳小血管病における認知機能低下に関する多施設追跡調査研究 | 三輪 佳織 | 脳血管内科部 | 910,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 抑うつに対する音の両側性刺激の効果の基礎的研究 | 山内 美穂 | 脳神経内科部 | 780,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 疾患特異的iPS細胞のゲノム編集・アクチン再構成による遺伝性脳小血管病の治療開発 | 山本 由美 | 病態代謝部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 若年性遺伝子による小児脳難病の遺伝子治療法開発 | 森 雅樹 | 血管生理学部 | 1,534,505 | 補 | 科学研究費補助金 |
| カテコラミン感受性多型生心室頻拍の効率的な診断・治療法の確立 | 大野 聖子 | 分子生物学部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 心室細胞発症におけるTMEM168遺伝子変異解析とトラスレーショナル研究への応用 | ZANKOV Dimi | 分子生物学部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 急性心不全のBNP前駆体プロセッシング亢進による新しい代償機構の検証とその臨床応用 | 高濱 博幸 | 心臓血管内科部心不全科 | 1,170,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 虚血性心不全モデルにおける飲水行動制御と薬理的迷走神経刺激の併用治療効果の検討 | 鄭 燦 | 循環動態制御部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 心臓サルコイドーシスに対する抗菌薬治療の炎症進展抑制効果を検討する探索的研究 | 草野 研吾 | 心臓血管内科部心不全科 | 1,430,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 心臓サルコイドーシスに対する抗菌薬治療の炎症進展抑制効果を検討する探索的研究 | 服部 哲久 | 分子生物学部 | 1,560,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| メカノシグナルによる心筋微小管の動的制御機構の解明と治療への応用 | 新谷 泰範 | 分子薬理部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 移植心冠動脈硬化症に対するPCSK9阻害剤の安全性および有効性評価 | 黒田 健輔 | 移植医療部 | 650,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 家族性高コレステロール血症の残余リスク制圧: HDLを悪玉化させる原因脂質の探索 | 小倉 正恒 | 病態代謝部 | 780,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| MRIと分子イメージングに基づく動脈硬化の定量的診断と新しい予防戦略の構築 | 野口 暉夫 | 心臓血管内科部冠疾患科 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 周産期心筋症の早期診断のためのバイオマーカー検査確立研究 | 神谷 千津子 | 周産期・婦人科部 | 1,690,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 新規生理活性ペプチドNURPが担う新しい生体制御機構の解明 | 森 健二 | 生化学部 | 1,690,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| OSTNが仲介する骨膜依存的な海綿骨形成機構の解明 | 高野 晴子 | 細胞生物学部 | 1,170,000 | 補 | 科学研究費補助金 |

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|--|--------|-----------------|-----------|----------|----------|
| 妊娠関連血栓性疾患の原因究明と治療法の確立を目指した研究 | 根木 玲子 | ゲノム医療支援部 | 650,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 看護研究の倫理に関する研究倫理的側面からの分析調査と教育プログラムの作成 | 土井 香 | 医学倫理研究部 | 910,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 運動が糖尿病性微小血管障害を改善するメカニズムの解明 | 曽野部 崇 | 心臓生理機能部 | 780,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 気候変動による脆弱性と効果修飾因子の相互作用に関する大規模疫学研究 | 小野塚 大介 | 予防医学・疫学情報部 | 1,430,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| ストレスフリーなウェアラブル指向型全血行動態モニターと循環管理システムの統合開発 | 上村 和紀 | 循環動態制御部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 多層オミックス解析を用いた糖尿病性心筋障害の病態解明 | 坂田 泰彦 | 臨床研究開発部 | 1,280,855 | 補 | 科学研究費補助金 |
| GPR40－腸内環境・細菌叢の相互作用による新規の脂質糖代謝異常の改善機構の探索 | 富田 努 | バイオバンク | 910,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 発生における脈管間相互作用の役割の解明 | 浦崎 明宏 | 分子生理部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 肥大型心筋症の病態形成における心筋エネルギー代謝異常の役割の解明と治療薬の検討 | 杜 成坤 | 心臓生理機能部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 乳児特発性僧帽弁腱索断裂の病因解明のためのトランスクリプトーム・メタゲノム解析 | 白石 公 | 教育推進部 | 1,690,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 急性心筋梗塞に対する再灌流後迷走神経刺激による梗塞巣縮小効果の機序解明と最適化 | 稲垣 正司 | 循環動態制御部 | 1,430,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 心臓突然死に関連する遺伝子異常・多型の解明と人工知能(AI)の応用 | 相庭 武司 | 先端不整脈探索医学研究部 | 1,690,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| IL-6阻害による重症肺高血圧症の新規治療法開発に向けた基盤的研究 | 稲垣 薫克 | 血管生理学部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 心不全および致死性不整脈に対する遠隔治療指針開発のための基盤研究 | 野田 崇 | 心臓血管内科 部不整脈科 | 1,040,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 病理組織解析と質量分析の統合による冠動脈硬化性プラーク破綻の機序解明 | 大塚 文之 | 心臓血管内科 部冠疾患科 | 1,040,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| ブルガダ症候群と不整脈源性右室心筋症の臨床的・分子生物学的同異性に関する検討 | 永瀬 聡 | 心臓血管内科 部不整脈科 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 経カテーテル大動脈弁留置術の予後に左室拡張機能障害が与える影響に関する検討 | 神崎 秀明 | 心臓血管内科 部心不全科 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 好中球SiglecへのVWFとADAMTS13の結合を介したNETs形成調節機構 | 秋山 正志 | 分子病態部 | 1,560,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 第三世代シーケンサーを用いた血栓症の遺伝的背景の解明と診断・治療への活用 | 宮田 敏行 | 脳血管内科部 | 1,430,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 心筋細胞のDNA損傷応答におけるDNAメチル化制御機構の役割 | 細田 洋司 | 再生医療部 | 1,690,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 飽食シグナルとして機能する新規生理活性物質の同定と作用機構の解明 | 吉田 守克 | 生化学部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|--|--------|---------------|-----------|----------|----------|
| 心臓移植後の冠動脈病変の進行を低侵襲的に予測する方法の検討 | 渡邊 琢也 | 移植医療部 | 1,430,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| バルーンによる留置後ステント展開の臨床応用に向けた血管成長性と血行動態の評価 | 藤本 一途 | 小児循環器部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 複雑心奇形のベッドサイド血行動態シミュレータの開発 | 清水 秀二 | 循環動態制御部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 麻酔科領域で使用されるアトロピンの効果を改善するアトロピンエステラーゼ製剤の開発 | 山崎 悟 | 分子薬理部 | 1,430,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| アミロイドβのクリアランス指標に関する地域疫学研究－横断・縦断的検討－ | 東山 綾 | 予防健診部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 研究倫理コンサルテーションの質保証のための必須記録項目および記録システムの開発 | 會澤 久仁子 | 医学倫理研究部 | 910,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 低酸素誘導分子に着目した糖尿病性腎臓病機序解明－SGLT2阻害からのアプローチ | 榎野 久士 | 糖尿病・脂質代謝内科部 | 1,690,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 重症心不全領域の急性腎障害警告システム構築と腎機能の可逆性指標に関する基盤的研究 | 吉原 史樹 | 腎臓・高血圧内科部 | 1,690,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 遺伝性出血性末梢血管拡張症の統合的な病態解明 | 岩朝 徹 | 小児循環器内科部 | 1,430,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 希少心筋疾患に対する重症心不全診療指針の確立 | 瀬口 理 | 移植医療部 | 910,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 治療抵抗性の冠動脈粥腫内石灰化形成におけるプロテアーゼ PCSK7の意義解明研究 | 片岡 有 | 心臓血管内科部(肝疾患科) | 1,040,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| トランスポーター群の遺伝子異常による心筋恒常性の破綻と心臓突然死の関連の解明 | 石川 泰輔 | 創薬オミックス解析センター | 1,950,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 二次性MRIに対するカテーテル修復術のレスポンス同定と費用対効果分析 | 天木 誠 | 心臓血管内科部(心不全科) | 1,170,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| メカノセンサーチャネルを標的とした心筋症・心不全新規治療法の開発 | 岩田 裕子 | 臨床研究開発部 | 1,560,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| ビッグデータによる心筋梗塞の慢性期を含む新規医療の質指標の開発と国際共同比較研究 | 中尾 一泰 | 心臓血管内科部(肝疾患科) | 2,600,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 組織特異的AHRノックアウトマウスを用いた肺動脈性肺高血圧症発症メカニズムの解明 | 岡澤 慎 | 血管生理学部 | 1,690,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 心内膜心筋生検試料のプロテオーム解析手法の確立と応用 | 若林 真樹 | 創薬オミックス解析センター | 1,430,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| グレリンの生理作用を応用した「抗癌剤誘発性心筋症」に対する画期的治療法開発 | 徳留 健 | 生化学部 | 1,560,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 心臓リモデリングにおける交感神経非依存的な新規の脳－心臓連環機構の解明 | 大谷 健太郎 | 再生医療部 | 1,430,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 高安動脈炎に関連する肺高血圧症に対するIL-6阻害薬の有効性と治療指標の探索 | 上田 仁 | 心臓血管内科部(肺循環科) | 1,170,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 近赤外線分光法をによる麻酔薬の脳血流・脳酸素代謝に対する影響の評価 | 吉谷 健司 | 輸血管理部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|---|--------|-----------------------|-----------|----------|----------|
| 脳動脈瘤壁の慢性炎症と退行性変化をもたらす血行力学的因子の解明 | 片岡 大治 | 脳神経外科部 | 1,560,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 脳動脈瘤破裂予防を目指した創薬標的の同定 | 青木 友浩 | 分子薬理部 | 2,210,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 骨代謝調節因子による肥満やそれに起因する脂肪肝炎の制御とその病態生理学的役割 | 日野 純 | 生化学部 | 2,080,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 医療アクセスが急性期脳卒中中の患者予後に及ぼす影響 | 笹原 祐介 | 循環器病統合情報センター | 1,950,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| フレイル予防の視点を取り入れた高齢者の脂質管理に関する研究 | 竹上 未紗 | 予防医学・疫学情報部 | 1,950,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 行動変容ステージに基づいた個別勧奨システム構築による心臓リハビリ継続率向上 | 中西 道郎 | 循環器病リハビリテーション部 | 1,690,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 低栄養合併の高齢心不全例に対するHAL腰タイプ併用リハビリテーションの可能性 | 山本 壱弥 | リハビリテーション科 | 1,950,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 初期メタボリックシンドロームに対する運動療法の予防・改善効果の多層的解明 | 土持 裕胤 | 心臓生理機能部 | 910,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| ポリフェノールのコレステロール搬出増強作用に着目した新規糖尿病発症予防分子の同定 | 松木 恒太 | 病態代謝部 | 1,820,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 急性期脳梗塞における血管内治療室内での灌流画像を用いた診療支援システムの構築 | 井上 学 | 脳卒中集中治療科 | 2,210,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| ギャップ結合遺伝子異常による心臓刺激伝導障害の新たな分子病態の解明 | 蒔田 直昌 | 研究所 | 1,690,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 心筋細胞の老化を定義づけるエピジェネティック変動の解明 | 白井 学 | 創薬オミックス解析センター | 1,820,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| マウス生体内のミトコンドリア内ATP産生速度の定量的計測法開発 | 山本 正道 | 研究推進支援部 | 1,170,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| コラーゲン結合蛋白産生性齧蝕原性細菌の脳出血誘導機序の解明と治療法開発への挑戦 | 猪原 匡史 | 脳神経内科部 | 2,730,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| エネルギー代謝を司る腸内細菌叢由来の新規ペプチド性因子の探索と機能解析 | 宮里 幹也 | 生化学部 | 1,950,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 血中 β 2ミクログロブリンを肝臓から排泄する新たな薬物-誘導除去療法のPOC構築 | 山岡 哲二 | 生体医工学部 | 7,150,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 胎盤型ECMOシステムを用いた新生児呼吸循環障害の革新的管理法の創出 | 水野 敏秀 | 人工臓器部 | 2,990,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| Brugada症候群における遺伝子多型が心イベントに与える影響 | 山形 研一郎 | 心臓血管内科部 不整脈科 | 520,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 高精度持続皮下測定での血糖変動と左室拡張障害の関連の検討—心筋微小循環での意義— | 椋谷 真由 | 糖尿病・脂質代謝内科部 | 910,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| アミロイドPETIによる高齢者心不全の病態解明と心脳連関の探究 | 立石 恵実 | 放射線部 | 260,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 虚血性心臓病の病態生理を考慮した高精度・非侵襲的な発症リスク評価法の確立研究 | 細田 勇人 | 心臓血管内科部 心臓血管系集中治療科 | 1,040,000 | 補 | 科学研究費補助金 |

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|---|-----------|-------------------|-----------|----------|----------|
| Mtus1遺伝子による 心肥大抑制機構の解明とその臨床応用 | 伊藤 慎 | 臨床研究開発部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| マルファン症候群およびその類縁動脈疾患の病態と遺伝基盤の解明および治療法の確立 | 柳生 剛 | 心臓血管内科 部血管科 | 780,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 膠原病性肺高血圧症における炎症・組織リモデリングの解明に向けた免疫組織学的検討 | 大郷 恵子 | 病理部 | 1,170,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| Understanding the pathogenesis of right heart failure in pulmonary arterial hypertension | ワディンガム | 肺高血圧症 先端医学研究部 | 1,690,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| Angiopoietin/Tie1による初期リンパ管新生制御メカニズムの解明 | 諸岡 七美 | 細胞生物学部 | 2,210,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 脳卒中後てんかんにおける灌流画像診断ソフト及び診断・予後評価ソフトの開発 | 福間 一樹 | 脳神経内科部 | 2,080,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| エクソソーム、炎症マーカー、遺伝子の解析による糖尿病における認知症発症の病態解明 | 松原 正樹 | 糖尿病・脂質代謝内科部 | 780,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 老化をHDLで減速させる—早老症ウェルナー症候群から探る老化と脂質のクロストーク | 山本 雅 | 病態代謝部 | 1,820,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 脳心血管疾患での抗血栓療法中の大出血予測方法の開発、および脳小血管病の影響の解明 | 田中 寛大 | 脳血管部門 脳卒中集中治療科 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 透析患者の脳卒中における後天性von willebrand 症候群に関する研究 | 池之内 初 | 脳血管部門 | 780,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 心筋MRI遅延造影画像から再現した病理画像を用いた心筋症診断法の開発 | 太田 靖利 | 放射線部 | 390,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 4次元ノイズ低減法を教師とした拡張知能によるノイズ低減法の心臓CTへの応用研究 | 西井 達矢 | 放射線部 | 1,040,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 特発性心室細動の新展開:網羅的な全エクソン解析による遺伝要因と発症機序の解明 | 謝 珮琴(CHA) | 病態ゲノム医学部 | 780,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 心臓MRI 4D flowによる心原性脳梗塞の病態解明および発症予測 | 井上 優子 | 心臓血管内科 部不整脈科 | 1,040,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 肺高血圧症におけるApelin陽性細胞の役割 | 正木 豪 | 血管生理学部 | 2,080,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 心筋トランスクリプトーム解析による、遺伝性不整脈の新たな病態解明 | 園田 桂子 | 分子生物学部 | 1,690,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 光干渉断層法を用いた新しいヒス束ペーシングデリバリーカテーテルの開発 | 石橋 耕平 | 心臓血管内科 部不整脈科 | 1,040,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 電気生理学的機能解析を用いた早期再分極症候群の病態解明と有効な治療法の探索 | 高山 幸一郎 | 分子生物学部 | 2,080,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 平滑筋細胞特異的Creで標識される血液細胞の循環器疾患における役割の解明 | 石橋 知彦 | 血管生理学部 | 2,080,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 血管作動性ペプチドCNPの糖尿病腎症における病態生理学的意義の解明 | 延生 卓也 | 生化学部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| A new therapeutic approach to diabetic nephropathy: targeting renal hypoxia by inhibition of sodium-glucose co-transport in the proximal tubule | オー ペイ・チ | 心臓生理機能部 | 1,950,000 | 補 | 科学研究費補助金 |

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|--|----------|-------------------|-----------|----------|----------|
| ADAMTS13の発現調節機構の解明と血栓症の病因との相関 | 三島 優一 | 分子病態部 | 2,340,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 拡張型心筋症に対するONO1301長期経口投与による心筋再生の検討 | 奥田 直樹 | 心臓血管外科 | 1,690,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 胸腹部大動脈周術期の脊髄血流の定量化と人工知能による脊髄虚血予測モデルの構築 | 四條 崇之 | 心臓血管外科 | 1,820,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 植込型左室補助人工心臓術後の合併症発症予測因子としての血管内皮機能の有用性の検討 | 土井 誠子(中) | 移植医療部 | 1,170,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| LVAD装着後心室間同期不全の病態解明 | 島村 淳一 | 人工臓器部 | 1,430,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 常在細菌叢と重症心不全ならびにドライブライン感染との関係の検討 | 田所 直樹 | 血管外科部 | 650,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 新規生理活性ペプチドに着目した妊娠高血圧腎症の病態解明と新規治療法開発 | 稲富 絢子 | 人工臓器部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 脳卒中データバンクを用いた再開通治療の実態解明とデータフィードバック効果の検討 | 園田 和隆 | 脳血管部門 脳卒中集中治療科 | 1,170,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 都市部地域住民を対象とした筋力低下とメタボリックシンドローム罹患に関する追跡研究 | 河面 恭子 | 糖尿病・脂質代謝内科部 | 910,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 退院後心不全患者の包括的管理を可能とする革新的遠隔心臓リハビリテーションの確立 | 三浦 弘之 | 心臓血管内科部冠疾患科 | 1,690,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 慢性腎臓病患者に特化した認知機能低下の予測モデル・因果構造仮説・予防モデルの開発 | 尾形 宗士郎 | 予防医学・疫学情報部 | 1,430,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 心不全を予防する心房間シャントデバイスの個別最適化システムの開発 | 西川 拓也 | 循環動態制御部 | 2,210,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 糖鎖改変細胞を用いた光造形による組織構築 | 大高 晋之 | 生体医工学部 | 593,357 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 糖尿病性腎臓病予測マーカー探索:超精密血糖変動評価、エクソソーム解析を含めた検討 | 肥塚 諒 | 糖尿病・脂質代謝内科部 | 2,210,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 血液凝固制御因子プロテインSおよびプロテインCの活性測定法の開発 | 丸山 慶子 | 分子病態部 | 1,430,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 脳血管造影とMRIの融合画像を用いた穿通枝領域の脳梗塞の病態解明 | 高下 純平 | 脳血管内科部 | 1,690,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| Function and mechanism analysis of short QT syndrome related KCNH2 gene variants | Wang Qi | 分子生物学部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 血流予備比(FFR)を用いた重症虚血肢治療アルゴリズムの構築 | 米田 秀一 | 心臓血管内科部(肝疾患科) | 1,950,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| カルモジュリノパチーの病態解明と核酸医薬を用いた新規治療法の開発 | 山本 雄大 | 分子生物学部 | 2,210,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 肝臓の網羅的遺伝子発現解析から探る肺高血圧症の新規病態形成メカニズムの解明 | 浅野 遼太郎 | 肺高血圧症先端医学研究部 | 2,080,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 循環器病に対する薬物療法認知コンピューティング支援ツールの開発と臨床応用 | 藤野 雅史 | 心臓血管内科部(肝疾患科) | 1,560,000 | 補 | 科学研究費補助金 |

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|--|--------------|------------------|------------|----------|------------|
| Vector Flow Mappingを用いた運動負荷前後の血行動態変化の検証 | 天野 雅史 | 心臓血管内科部(心不全科) | 780,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| トランスサイレチン型心アミロイドーシス新規治療薬の最適化と費用対効果の検討 | 岡田 厚 | 心臓血管内科部(心不全科) | 910,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 下肢切断・致命的となりうる重症下肢虚血におけるHDL粒子機能の関与解明研究 | 舟橋 紗耶華 | 心臓血管内科 | 260,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 慢性心房細動におけるf波波高と術中測定心房電位、心房線維化の関係性についての研究 | 角田 宇司 | 心臓外科部 | 1,950,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 人工知能を用いた気象観測データを基にした心原性院外心停止の新規予測モデルの開発 | 中島 啓裕 | 心臓血管内科部(心臓血管系集中) | 2,860,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 臨床試験における適応的な試験計画の最適化に関する統計的方法の研究 | 朝倉 こう子 | データサイエンス部 | 780,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 認知症の発症前段階を検出するための複合画像バイオマーカーの開発 | 中奥 由里子 | 予防医学・疫学情報部 | 910,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 在宅認知症高齢者におけるリハビリテーションを含む介護サービス利用の長期的効果検証 | 村田 峻輔 | 予防医学・疫学情報部 | 1,560,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 味覚の再生に向けた改良型味蕾オルガノイドの作製と移植技術の開発 | 藤田 恭平 | 病態代謝部 | 500,033 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 自己末梢血単核球の効率的な定着による重症下肢虚血の治療 | 東 倫之 | 生体医工学部 | 1,430,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 心磁図データの三次元シミュレーション最適平面投影による期外収縮起源同定法の開発 | 孫 文旭 | 研究推進支援部 | 1,430,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| Significance of a troponin complex gene in embryonic development and disease | LAMRI LY NDA | 分子生理部 | 1,300,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 異なるヘムタンパク質に共有される新規アロステリック活性調節機構の解明 | 長尾 壮将 | 分子薬理部 | 1,430,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 放射光微小血管イメージングを用いた脳血管内皮機能に対する運動効果の統合的解明 | 前田 久 | 心臓生理機能部 | 1,430,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 人種特異性に着目したゲノム解析による原因不明の心臓突然死の病態解明 | 蒔田 直昌 | 研究所 | 5,590,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 脊椎動物モデルに共通する受精の分子メカニズムの解明 | 藤原 祥高 | 分子生物学部 | 2,210,000 | 補 | 科学研究費補助金 |
| 細胞の三次元配置技術に基づいた小口径脱細胞血管等組織再生材料の創成 | 山岡 哲二 | 生体医工学部 | 22,899,890 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| Targeting age associated white matter lesions (加齢性大脳白質病変の決定因子の解明) | 猪原 匡史 | 脳神経内科 | 250,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 持続血糖モニタリング(FGM/CGM)の血糖管理における精度・有用性の検証及び健康寿命促進のための血糖変動指標の探索 | 細田 公則 | 糖尿病・脂質代謝内科部 | 13,000,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 循環器疾患領域における多剤併用(polypharmacy)の実態とその問題把握に関する研究 | 安田 聡 | 病院(副院長) | 45,500,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 脳動脈瘤治療薬の探索 | 青木 友浩 | 分子薬理部 | 12,626,900 | 委 | 日本医療研究開発機構 |

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|---|---------------|----------|-------------|----------|------------|
| 糖尿病に起因する心筋拡張障害発症機序および運動による予防効果の解明 | ピアソン ジェームズ | 心臓生理機能部 | 6,500,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 洞不全症候群の臨床情報・遺伝学的解析に基づくリスク層別化アルゴリズムの開発 | 大野 聖子 | 分子生物学部 | 13,000,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 東アジア特有の高血圧・脳梗塞リスクRNF213p.R4810K多型の迅速判定法の確立と判定拠点の構築 | 猪原 匡史 | 脳神経内科 | 52,000,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 遺伝子関連情報の解析を用いた臓器移植に関わる個別化医療に関する研究 | 福嶋 教偉 | 移植医療部 | 7,800,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 脳梗塞急性期のアドレノメデュリン静注療法の確立 | 猪原 匡史 | 脳神経内科 | 78,917,584 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 脳出血超急性期患者への遺伝子組換え活性型第VII因子投与の有効性と安全性を検証する研究者主導国際臨床試験 | 豊田 一則 | 病院(副院長) | 39,000,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 他家羊膜間葉系幹細胞を用いた重症特発性拡張型心筋症に対する新規治療の開発 | 藤田 知之 | 心臓血管外科 | 39,000,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 致死性不整脈の原因心筋イオンチャネル遺伝子に同定されるVUSのハイスループット機能評価法に関する研究開発 | 蒔田 直昌 | 研究所(副所長) | 39,000,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 脳卒中における循環器病感受性遺伝子の役割解明とゲノム医療の探索 | 猪原 匡史 | 脳神経内科 | 13,000,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 心不全患者に対して客観的心不全予後予測情報がアドバンスケアプランニングに関する導入時期・患者QOLに及ぼす影響について | 泉 知里 | 心臓血管内科 | 6,500,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| メタボローム情報に基づく肺—腸—腸内細菌相関による肺動脈性肺高血圧症の発症機構 | 中岡 良和 | 血管生理学部 | 11,700,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 不整脈原性右室心筋症の分子メカニズムに基づくエビデンス創出研究 | 大野 聖子 | 分子生物学部 | 12,350,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 新規血栓溶解薬テネクテブラーゼの脳梗塞急性期再灌流療法への臨床応用を目指した研究 | 豊田 一則 | 病院(副院長) | 33,550,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 性差を加味した冠動脈疾患AI診断システムに関する研究開発 | 中尾 葉子 | 統合情報センター | 13,000,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 原発性高カイトミクロン血症を対象とした、アンチセンス医薬の開発 | 斯波 真理子 | 分子病態部 | 84,665,750 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 脳卒中のQOLと医療経済評価法の開発に関する研究 | 飯原 弘二 | 病院(病院長) | 6,500,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 抗Interleukin-21アプタマーを用いた肺動脈性肺高血圧症の革新的治療薬の開発 | 中岡 良和 | 血管生理学部 | 117,000,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 慢性血栓閉塞性肺高血圧症における肺動脈バルーン形成術の医療の質評価及びフィードバックシステムを構築する社会実装 | 小川 久雄 | 理事長 | 12,530,900 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 力学的刺激で活性化される心臓免疫シグナルの解明と治療応用 | 新谷 泰範 | 分子薬理部 | 13,000,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| マイクロバイオームを介した脳卒中発症メカニズムの解明 | 中岡 良和 | 血管生理学部 | 13,000,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 研究利活用のための脳卒中病態解明に資するゲノムデータベースの構築 | 古賀 政利 | 脳血管内科部 | 6,500,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|--|-------|------------|-------------|----------|------------|
| 新世代の認知行動療法「ACT」を用いた糖尿病セルフマネジメント法の開発 | 榎野 久士 | 糖尿病・脂質代謝内科 | 19,500,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 健康・医療データの収集・利活用による生活習慣病予防に関する研究 | 宮本 恵宏 | OIC(OIC長) | 26,000,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 小児先天性心疾患患者の生涯にわたるQOL改善を目指した、最適な治療方針決定のためのマルチスケール・マルチフィジック | 白石 公 | 教育研修部 | 15,600,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 脳動脈瘤ビッグデータとAIを用いた増大破裂関連因子抽出と予測システムの構築 | 片岡 大治 | 脳神経外科 | 12,953,220 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 超高齢社会における健康寿命の延伸を目指した脳卒中予後予測モデルの開発 | 飯原 弘二 | 病院(病院長) | 13,000,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 将来の創薬を念頭に置いた心不全発症・増悪リスク層別化マーカーの開発 | 坂田 泰彦 | 臨床研究開発部 | 2,206,133 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 京都大学大学院における臨床統計家育成のための教育カリキュラムの標準化のための研究開発 | 大前 勝弘 | データサイエンス部 | 23,443,134 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 血管のメカノバイオロジー:血流センシングと脳動脈瘤形成の分子機構 | 青木 友浩 | 分子薬理部 | 11,440,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| ヒトiPS分化細胞技術を応用した医薬品の心毒性評価法の開発と国際標準化に関する研究 | 細田 洋司 | 再生医療部 | 2,600,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 精神・神経疾患治療薬及びがん治療薬におけるファーマコゲノミクス研究 | 高橋 篤 | 病態ゲノム医学部 | 2,600,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 急性心筋梗塞の予後を改善する経皮的迷走神経刺激システムの開発 | 稲垣 正司 | 循環動態制御部 | 16,900,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| ゲノム医療の実装に資する臨床ゲノム情報統合データベースの整備と我が国の継続的なゲノム医療実施体制の構築/(分担)NCVC | 宮本 恵宏 | バイオバンク | 301,600,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 新型コロナウイルス肺炎に対する高性能新規ECMOシステムの有効性・安全性に関する臨床研究 | 福嶋 教偉 | 移植医療部 | 657,218,100 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| 新型コロナウイルス感染防止用新型高機能マスク(N95相当)の開発および実証化に向けた研究 | 西村 邦宏 | 予防医学・疫学情報部 | 108,095,000 | 委 | 日本医療研究開発機構 |
| | | | | | |

(注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

合計
203

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|-------|-----------------------|--|--|------------------|
| 1 | 柳生剛 | 血管科医師 | Novel Evaluation Method for Lower Extremity Peripheral Artery Disease With Duplex Ultrasound – Usefulness of Acceleration Time – | Circulation Journal. 2020 Oct; 84: 1990–1998 | Original Article |
| 2 | 津田悦子 | 医療安全管理室長 | Two females with coronary artery occlusion caused by presumed Kawasaki disease would have delivered without recognition of ischaemic heart disease | Cardiology in the Young. 2020 Jun; 30: 785–789 | Case report |
| 3 | 上田暢彦 | 不整脈科医師 | Clinical impact of left ventricular paced conduction disturbance in cardiac resynchronization therapy | Heart Rhythm. 2020 Nov; 17: 1870–1877 | Original Article |
| 4 | 上田暢彦 | 不整脈科医師 | Efficacy and safety of new-generation atrial antitachycardia pacing for atrial tachyarrhythmias in patients implanted with cardiac resynchronization therapy devices | Journal of Cardiology. 2020 May; 75: 559–566 | Original Article |
| 5 | 長谷川拓也 | 客員研究員 | Difference in the prevalence of subclinical left ventricular impairment among left ventricular geometric pattern in a community-based population | Journal of Cardiology. 2020 Apr; 75: 439–446 | Original Article |

| | | | | | |
|----|------|------------|--|--|------------------|
| 6 | 福寫五月 | 心臓外科部長 | “BAX602” in Preventing Surgical Adhesion after Extracorporeal Ventricular Assist Device Implantation for Refractory Congestive Heart Failure: Study Protocol for a Multicenter Randomized Clinical Trial | Cardiovascular Drugs and Therapy. 2020 Oct; 34: 651–657 | Original Article |
| 7 | 瀬口理 | 移植病棟医長 | A Novel Extracorporeal Continuous-Flow Ventricular Assist System for Patients With Advanced Heart Failure – Initial Clinical Experience – | Circulation Journal. 2020 Jun; 84: 1090–1096 | Original Article |
| 8 | 藤田知之 | 心臓血管外科部門長 | Mitral valve surgery for ischemic papillary muscle rupture: outcomes from the Japan cardiovascular surgery database | General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2020 Dec; 68: 1439–1446 | Original Article |
| 9 | 福寫五月 | 心臓外科部長 | Central conversion from peripheral extracorporeal life support for patients with refractory congestive heart failure | Journal of Artificial Organs. 2020 Sep; 23: 214–224 | Original Article |
| 10 | 吉本武史 | 脳神経内科医師 | Treatment Outcomes by Initial Neurological Deficits in Acute Stroke Patients with Basilar Artery Occlusion: The RESCUE Japan Registry 2 | Journal of Stroke & Cerebrovascular Diseases. 2020 Nov; 29: 105256 | Original Article |
| 11 | 田中寛太 | 脳卒中集中治療科医師 | Atrial Fibrillation–Associated Ischemic Stroke Patients With Prior Anticoagulation Have Higher Risk for Recurrent Stroke | Stroke. 2020 Apr; 51: 1150–1157 | Original Article |
| 12 | 古賀政利 | 脳血管内科部長 | Thrombolysis With Alteplase at 0.6 mg/kg for Stroke With Unknown Time of Onset: A Randomized Controlled Trial | Stroke. 2020 May; 51: 1530–1538 | Original Article |

| | | | | | |
|----|-------|-----------------|---|---|------------------|
| 13 | 福田真弓 | 臨床研究品質管理室長 | Sex Differences in Blood Pressure-Lowering Therapy and Outcomes Following Intracerebral Hemorrhage: Results From ATACH-2 | Stroke. 2020 Aug; 51: 2282-2286 | Original Article |
| 14 | 松原正樹 | 糖尿病・脂質代謝内科医師 | A Prospective Longitudinal Study on the Relationship Between Glucose Fluctuation and Cognitive Function in Type 2 Diabetes: PROPOSAL Study Protocol | Diabetes Therapy. 2020 Nov; 11: 2729-2737 | Original Article |
| 15 | 濱野栄佳 | 脳神経外科医師 | Intracranial arterial stenosis associated with Hashimoto's disease: angiographic features and clinical outcomes | BMC Neurology. 2020 Sep; 20: 345 | Original Article |
| 16 | 大内秀雄 | 小児循環器内科医長(小児病棟) | Prognostic value of von Willebrand factor in adult patients with congenital heart disease | Heart. 2020 Jun; 106: 910-915 | Original Article |
| 17 | 柳英利 | 理学療法士 | EFFECTS OF EXERCISE TRAINING ON PHYSICAL ACTIVITY IN HEART FAILURE PATIENTS TREATED WITH CARDIAC RESYNCHRONIZATION THERAPY DEVICES OR IMPLANTABLE CARDIOVERTER DEFIBRILLATORS | Journal of Rehabilitation Medicine. 2020 Oct; 52: jrm00111 | Original Article |
| 18 | 角田宇司 | 心臓外科医師 | Early results of robotically assisted mitral valve repair in a single institution: report of the first 100 cases | General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2020 Oct; 68: 1079-1085 | Original Article |
| 19 | 清家愛幹 | 血管外科医長(病棟) | Histologic differences between the ascending and descending aortas in young adults with fibrillin-1 mutations | The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2020 Apr; 159: 1214-1220.e1 | Original Article |
| 20 | 堀之内宏樹 | 画像診断科／IVR科医師 | CT angiography with 15 mL contrast material injection on time-resolved imaging for endovascular abdominal aortic aneurysm repair | European Journal of Radiology. 2020 May; 126: 108861 | Original Article |

| | | | | | |
|----|------|------------------------------|---|--|------------------|
| 21 | 太田靖利 | 画像診断科医長(機能画像・ 定量化解析・地域連携) | Investigation of myocardial extracellular volume fraction in heart failure patients using iodine map with rapid-kV switching dual-energy CT: Segmental comparison with MRI T1 mapping | Journal of Cardiovascular Computed Tomography. 2020 Jul-Aug; 14: 349-355 | Original Article |
| 22 | 今津美樹 | 臨床研究審査室長 | Plasma indoxyl sulfate levels predict cardiovascular events in patients with mild chronic heart failure | Scientific Reports. 2020 Oct; 10: 16528 | Original Article |
| 23 | 片岡大治 | 脳神経外科部長 | Hemodynamic and Histopathological Changes in the Early Phase of the Development of an Intracranial Aneurysm | Neurologia medico-chirurgica. 2020 Jul; 60: 319-328 | Original Article |
| 24 | 藤野雅史 | 冠疾患科医師 | Fate of late-acquired bioresorbable scaffold malapposition: insights from serial optical coherence tomography | European Heart Journal. 2020 Dec; 41: 4446 | Case report |
| 25 | 片岡有 | 冠疾患科医長(病棟) | Progression of ultrasound plaque attenuation and low echogenicity associates with major adverse cardiovascular events | European Heart Journal. 2020 Aug; 41: 2965-2973 | Original Article |
| 26 | 北原慧 | 循環器病専門修練医 | In vivo imaging of vulnerable plaque with intravascular modalities: its advantages and limitations | Cardiovascular Diagnosis and Therapy. 2020 Oct; 10: 1461-1479 | Review |

| | | | | | |
|----|-------|-----------------|--|---|------------------|
| 27 | 柳生剛 | 血管科医師 | Rationale and Design of a Prospective, Multicenter, Single-Arm Clinical Trial to Investigate the Safety and Effectiveness of Rotablator Atherectomy System as an Adjunctive Device for Endovascular Treatment of Occlusive Atherosclerotic Lesions in Below-the-Knee Arteries With Critical Limb Ischemia (RESCUE-BTK) | Circulation Reports. 2020 Jun; 2: 449-454 | Original Article |
| 28 | 澤田賢一郎 | 心臓血管系集中治療科医師 | Predicting Parameters for Successful Weaning from Venous Arterial Extracorporeal Membrane Oxygenation in Cardiogenic Shock | ESC Heart Failure. 2021 Feb; 8: 471-480 | Original Article |
| 29 | 片岡有 | 冠疾患科医長(病棟) | Coronary artery ectasia: Importance of its risk stratification and management | International Journal of Cardiology. 2021 Jan; 322: 43-44 | Others |
| 30 | 若宮輝宜 | 不整脈科医師 | Improved Risk Stratification of Patients With Brugada Syndrome by the New Japanese Circulation Society Guideline - A Multicenter Validation Study | Circulation Journal. 2020 Nov; 84: 2158-2165 | Original Article |
| 31 | 泉知里 | 心臓血管内科部長(心不全担当) | Isolated functional tricuspid regurgitation: When should we go to surgical treatment? | Journal of Cardiology. 2020 Apr; 75: 339-343 | Review |
| 32 | 天野雅史 | 心不全科医師 | Changes of echocardiographic parameters in primary mitral regurgitation and determinants of symptom: an assessment from the Asian Valve Registry data | Heart and Vessels. 2020 Apr; 35: 555-563 | Original Article |

| | | | | | |
|----|------|-----------------|---|--|------------------|
| 33 | 泉知里 | 心臓血管内科部長(心不全担当) | Registry of antithrombotic therapy in atrial fibrillation patients with bioprosthetic valves: A retrospective observational study | Journal of Cardiology. 2020 Jul; 76: 44-50 | Original Article |
| 34 | 泉知里 | 心臓血管内科部長(心不全担当) | JCS/JSCS/JATS/JSVS 2020 Guidelines on the Management of Valvular Heart Disease | Circulation Journal. 2020 Oct; 84: 2037-2119 | Others |
| 35 | 神崎秀明 | 心不全科医長(病棟) | Transcatheter Aortic Valve Replacement for Aortic Stenosis With Prosthetic Mitral Paravalvular Leak and Hemolytic Anemia | JACC: Case reports. 2020 Nov; 2: 2146-2150 | Case report |
| 36 | 島本恵子 | 非常勤医師 | Extracardiac Mass After Pericardiectomy: Mediastinal Fat Replacement Secondary to Progressive Constrictive Pericarditis | JACC: Case reports. 2021 Feb; 3: 339-344 | Case report |
| 37 | 渡邊琢也 | 移植対策室医師 | Influence of Induction Therapy Using Basiliximab With Delayed Tacrolimus Administration in Heart Transplant Recipients – Comparison With Standard Tacrolimus-Based Triple Immunosuppression – | Circulation Journal. 2020 Nov; 84: 2212-2223 | Original Article |
| 38 | 田所直樹 | 心臓外科医師 | Durable ventricular assist device implantation for systemic right ventricle: a case series | European Heart Journal: Case reports. 2020 Nov; 4: 1-9 | Original Article |
| 39 | 井上陽介 | 血管外科医師 | Analysis of Acute Type A Aortic Dissection in Japan Registry of Aortic Dissection (JRAD) | The Annals of Thoracic Surgery. 2020 Sep; 110: 790-798 | Original Article |

| | | | | | |
|----|------|------------|---|--|------------------|
| 40 | 清家愛幹 | 血管外科医長(病棟) | Preoperative Neck Angulation is Associated with Aneurysm Sac Growth Due to Persistent Type Ia Endoleak after Endovascular Abdominal Aortic Aneurysm Repair | Annals of Vascular Diseases. 2020 Sep; 13: 261-268 | Original Article |
| 41 | 井上陽介 | 血管外科医師 | Efficacy of entry exclusion strategy for DeBakey type III retrograde Stanford type A acute aortic dissection | European Journal of Cardio-Thoracic Surgery. 2021 Feb; 59: 481-489 | Original Article |
| 42 | 豊田一則 | 副院長 | Magnetic Resonance Imaging-Guided Thrombolysis (0.6 mg/kg) Was Beneficial for Unknown Onset Stroke Above a Certain Core Size: THAWS RCT Substudy | Stroke. 2021 Jan; 52: 12-19 | Original Article |
| 43 | 豊田一則 | 副院長 | Regional Differences in the Response to Acute Blood Pressure Lowering After Cerebral Hemorrhage | Neurology. 2021 Feb; 96: e740-e751 | Original Article |
| 44 | 豊田一則 | 副院長 | Dabigatran vs. Aspirin for Secondary Prevention After Embolic Stroke of Undetermined Source - Japanese Subanalysis of the RE-SPECT ESUS Randomized Controlled Trial - | Circulation Journal. 2020 Nov; 84: 2286-2295 | Original Article |
| 45 | 細木聡 | 循環器病専門修練医 | Oral Carriage of Streptococcus mutans Harboring the cnm Gene Relates to an Increased Incidence of Cerebral Microbleeds | Stroke. 2020 Dec; 51: 3632-3639 | Original Article |
| 46 | 猪原匡史 | 脳神経内科部長 | Drug Repositioning for Alzheimer's Disease: Finding Hidden Clues in Old Drugs | Journal of Alzheimer's Disease. 2020 Apr; 74: 1013-1028 | Review |
| 47 | 福間一樹 | 脳神経内科医師 | Visualizing prolonged hyperperfusion in post-stroke epilepsy using postictal subtraction SPECT | Journal of Cerebral Blood Flow & Metabolism. 2021 Jan; 41: 146-156 | Original Article |

| | | | | | |
|----|-------|--------------|---|--|------------------|
| 48 | 殿村修一 | 非常勤医師 | Microbiota in cerebrovascular disease: A key player and future therapeutic target | Journal of Cerebral Blood Flow & Metabolism. 2020 Jul; 40: 1368-1380 | Review |
| 49 | 齊藤聡 | 脳神経内科医師 | Cerebral Amyloid Angiopathy Presenting as Massive Subarachnoid Haemorrhage: A Case Study and Review of Literature | Frontiers in Aging Neuroscience. 2020 Nov; 12: 538456 | Case report |
| 50 | 宋戸亜由美 | レジデント | A Japanese boy with NAA10-related syndrome and hypertrophic cardiomyopathy | Human Genome Variation. 2020 Aug; 7: 23 | Others |
| 51 | 小森元貴 | 小児心臓外科医師 | Impact of Phrenic Nerve Palsy on Late Fontan Circulation | The Annals of Thoracic Surgery. 2020 Jun; 109: 1897-1902 | Original Article |
| 52 | 津田悦子 | 医療安全管理室長 | Time Course of Coronary Artery Aneurysms in Kawasaki Disease | The Journal of Pediatrics. 2021 Mar; 230: 133-139.e2 | Original Article |
| 53 | 帆足孝也 | 小児心臓外科医長(外来) | Long-term therapeutic effect of Fontan conversion with an extracardiac conduit | European Journal of Cardio-Thoracic Surgery. 2020 May; 57: 951-957 | Original Article |
| 54 | 帆足孝也 | 小児心臓外科医長(外来) | Application of modified bicaval technique for pediatric heart transplant with oversized donor heart | General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2020 Nov; 68: 1329-1332 | Original Article |
| 55 | 津田悦子 | 医療安全管理室長 | Insights into stent implantation for coronary artery lesions caused by Kawasaki disease | Cardiology in the Young. 2020 Jul; 30: 911-918 | Review |
| 56 | 福山緑 | 画像診断科/IVR科医師 | Subclavian artery pseudoaneurysm long after the division of modified Blalock-Taussig shunt | General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2020 Aug; 68: 848-850 | Case report |

| | | | | | |
|----|-------|--------------------|--|--|------------------|
| 57 | 黒寄健一 | 小児循環器内科部長 | Discrepancy Between Pre- and Postnatal Diagnoses of Congenital Heart Disease and Impact on Neonatal Clinical Course – A Retrospective Study at a Japanese Tertiary Institution – | Circulation Journal. 2020 Nov; 84: 2275–2285 | Original Article |
| 58 | 中西篤史 | 産婦人科医師 | Left ventricular hypertrophy in Japanese pregnant women with chronic hypertension predicts blood pressure elevation during pregnancy | Hypertension Research in Pregnancy. 2020 Apr; 8: 15–21 | Original Article |
| 59 | 小西妙 | 産婦人科医師 | Pregnancy outcomes in women with dilated cardiomyopathy: Peripartum cardiovascular events predict post delivery prognosis | Journal of Cardiology. 2021 Mar; 77: 217–223 | Original Article |
| 60 | 中西篤史 | 産婦人科医師 | Clinical management of coagulation status and placenta previa in a pregnant woman with Marfan’s syndrome after mitral and aortic mechanical heart valve replacement | General Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2021 Mar; 69: 550–554 | Original Article |
| 61 | 小久保喜弘 | 健康診査室医長 健診部特任部長 | Small-Dense Low-Density Lipoprotein Cholesterol: A Subclinical Marker for the Primary Prevention of Coronary Heart Disease | Journal of Atherosclerosis and Thrombosis. 2020 Jul; 27: 641–643 | Others |
| 62 | 吉谷健司 | 輸血管理部長 | Cerebrospinal fluid drainage to prevent postoperative spinal cord injury in thoracic aortic repair | Journal of Anesthesia. 2021 Feb; 35: 43–50 | Original Article |
| 63 | 金澤明子 | 輸血管理室医長 | Accuracy and Trending Ability of Blood Pressure and Cardiac Index Measured by ClearSight System in Patients With Reduced Ejection Fraction | Journal of Cardiothoracic and Vascular Anesthesia. 2020 Dec; 34: 3293–3299 | Original Article |

| | | | | | |
|----|-------|---------------------|---|---|------------------|
| 64 | 池田善彦 | 臨床検査科医長 | Commentary: Complete surgery necessary for optimal outcome in aortic neoplasm forming malignant cartilage | The Journal of Thoracic and Cardiovascular Surgery. 2020 May; 159: e289-e290 | Others |
| 65 | 立石恵実 | 画像診断科／IVR科医師 | Assessing the Clinical Value of Myocardial Perfusion SPECT in Cardiac Sarcoidosis with Diffuse Myocardial 18F-FDG Uptake | Annals of Nuclear Cardiology. 2020 Aug; 6: 39-45 | Original Article |
| 66 | 堀之内宏樹 | 画像診断科／IVR科医師 | Extraluminal recanalization for postoperative biliary obstruction using transseptal needle | Surgical Case reports. 2020 Dec; 6: 304 | Original Article |
| 67 | 堀之内宏樹 | 画像診断科／IVR科医師 | Mid-term Outcomes and Predictors of Transarterial Embolization for Type II Endoleak After Endovascular Abdominal Aortic Aneurysm Repair | Cardiovascular Interventional Radiology. 2020 May; 43: 696-705 | Original Article |
| 68 | 草野研吾 | 心臓血管内科部長(不整脈 担当) | The Japanese Catheter Ablation Registry (J-AB): A prospective nationwide multicenter registry in Japan. Annual report in 2018 | Journal of Arrhythmia. 2020 Oct; 36: 953-961 | Original Article |
| 69 | 津田浩輔 | 予防医学・疫学情報部 | Diminished response to statins predicts the occurrence of heart failure after acute myocardial infarction | Cardiovascular Diagnosis and Therapy. 2020 Aug; 10: 705-716 | Original Article |
| 70 | 丸目恭平 | 予防医学・疫学情報部 | Prognosis and Clinical Characteristics of Dilated Cardiomyopathy With Family History via Pedigree Analysis | Circulation Journal. 2020 Jul; 84: 1284-1293 | Original Article |
| 71 | 舟橋紗耶華 | 循環器病専門修練医 | Elevated admission urinary N-acetyl- β - D-glucosamidase level is associated with worse long-term clinical outcomes in patients with acute heart failure | European Heart Journal: Acute Cardiovascular Care. 2020 Aug; 9: 429- 436 | Original Article |

| | | | | | |
|----|------|------------|--|---|------------------|
| 72 | 中野宏己 | 研究推進支援部 | Prognostic value of base excess as indicator of acid-base balance in acute heart failure | European Heart Journal: Acute Cardiovascular Care. 2020 Aug; 9: 399–405 | Original Article |
| 73 | 岩上直嗣 | 予防医学・疫学情報部 | Identification of malignant early repolarization pattern by late QRS activity in high-resolution magnetocardiography | Annals of Noninvasive Electrocardiology. 2020 Jul; 25: e12741 | Original Article |
| 74 | 掛橋昇太 | ゲノム医療部門 | Two Forms of Monomorphic Ventricular Tachycardia in a Patient with Brugada Syndrome | Internal Medicine. 2020 May; 59: 1287–1290 | Case report |
| 75 | 大槻聡 | 予防医学・疫学情報部 | Intra-day change in occurrence of out-of-hospital ventricular fibrillation in Japan: The JCS-ReSS study | International Journal of Cardiology. 2020 Nov; 318: 54–60 | Original Article |
| 76 | 金丸栄樹 | 輸血管理部 | Effect of left ventricular assist device implantation on right ventricular function: Assessment based on right ventricular pressure-volume curves | Artificial Organs. 2020 Nov; 44: 1192–1201 | Original Article |
| 77 | 前川真基 | 輸血管理部 | Association between postoperative changes in the gut microbiota and pseudopsia after cardiac surgery: prospective observational study | BMC Surgery. 2020 Oct; 20: 247 | Original Article |
| 78 | 中島誠子 | 移植対策室医師 | Mechanical Circulatory Support Combined With Immunosuppression for the Treatment of Giant Cell Myocarditis – A Single-Center Experience in Japan – | Circulation Journal. 2020 Apr; 84: 815–819 | Original Article |

| | | | | | |
|----|-------|---------------------|--|---|------------------|
| 79 | 岩崎慶一郎 | 予防医学・疫学情報部 | Effect of the Creatinine Excretion Rate Index, a Marker of Sarcopenia, on Prediction of Intracranial Hemorrhage in Patients With Advanced Heart Failure and a Continuous-Flow Left Ventricular Assist Device | Circulation Journal. 2020 May; 84: 949-957 | Original Article |
| 80 | 築瀬正伸 | 移植対策室医長 | Effect of Therapeutic Modification on Outcomes in Heart Transplantation Over the Past Two Decades – A Single-Center Experience in Japan – | Circulation Journal. 2020 May; 84: 965-974 | Original Article |
| 81 | 岩崎慶一郎 | 予防医学・疫学情報部 | Incidence, Factors, and Prognostic Impact of Re-Exploration for Bleeding After Continuous-Flow Left Ventricular Assist Device Implantation – A Japanese Single-Center Study – | Circulation Journal. 2020 Oct; 84: 1949-1956 | Original Article |
| 82 | 池之内初 | レジデント | Bilateral carotid artery dissection due to Eagle syndrome in a patient with vascular Ehlers-Danlos syndrome: a Case report | BMC Neurology. 2020 Jul; 20: 285 | Case report |
| 83 | 菊野宗明 | 脳血管内科 | Underlying embolic and pathologic differentiation by cerebral microbleeds in cryptogenic stroke | Journal of Neurology. 2020 May; 267: 1482-1490 | Original Article |
| 84 | 佐藤健朗 | 脳血管内科 | D-dimer level and outcome of minor ischemic stroke with large vessel occlusion | Journal of the Neurological Sciences. 2020 Jun; 413: 116814 | Original Article |
| 85 | 安藤大祐 | 脳血管内科/脳血管リハビリテーション科 | Microstructural white matter changes following gait training with Hybrid Assistive Limb initiated within 1 week of stroke onset | Journal of the Neurological Sciences. 2020 Aug; 415: 116939 | Original Article |

| | | | | | |
|----|-------|---------|---|--|------------------|
| 86 | 奥野善教 | 脳血管内科 | Field Assessment of Critical Stroke by Emergency Services for Acute Delivery to a Comprehensive Stroke Center: FACE2AD | Translational Stroke Research. 2020 Aug; 11: 664-670 | Original Article |
| 87 | 斎藤こずえ | 脳血管内科 | BLOOD FLOW VISUALIZATION AND WALL SHEAR STRESS MEASUREMENT OF CAROTID ARTERIES USING VASCULAR VECTOR FLOW MAPPING | Ultrasound in Medicine and Biology. 2020 Oct; 46: 2692-2699 | Original Article |
| 88 | 辻雅弘 | 脳神経内科 | Cilostazol, a Phosphodiesterase 3 Inhibitor, Moderately Attenuates Behaviors Depending on Sex in the Ts65Dn Mouse Model of Down Syndrome | Frontiers in Aging Neuroscience. 2020 Apr; 12: 106 | Original Article |
| 89 | 松浦秀記 | 麻酔科 | Transient Neurological Events After Surgery for Pediatric Moyamoya Disease: A Retrospective Study of Postoperative Sedation Practices | Journal of Neurosurgical Anesthesiology. 2020 Apr; 32: 182-185 | Original Article |
| 90 | 羽山陽介 | 小児循環器内科 | Effect of Stiffened and Dilated Ascending Aorta on Aerobic Exercise Capacity in Repaired Patients With Complex Congenital Heart Disease | American Journal of Cardiology. 2020 Aug; 129: 87-94 | Original Article |
| 91 | 羽山陽介 | 小児循環器内科 | Progressive stiffening and relatively slow growth of the dilated ascending aorta in long-term Fontan survivors-Serial assessment for 15 years | International Journal of Cardiology. 2020 Oct; 316: 87-93 | Original Article |
| 92 | 羽山陽介 | 小児循環器内科 | Impact of delayed ventricular wall area ratio on pathophysiology of mechanical dyssynchrony: implication from single-ventricle physiology and 0D modeling | Journal of Physiological Sciences. 2020 Aug; 70: 38 | Original Article |

| | | | | | |
|----|------|------------|---|---|------------------|
| 93 | 羽山陽介 | 小児循環器内科 | Septal Flash-like Motion of the Earlier Activated Ventricular Wall Represents the Pathophysiology of Mechanical Dyssynchrony in Single-Ventricle Anatomy | Journal of the American Society of Echocardiography. 2020 May; 33: 612-621.e2 | Original Article |
| 94 | 澤田雅美 | 予防医学・疫学情報部 | Appropriate delivery method for cardiac disease pregnancy based on noninvasive cardiac monitoring | Journal of Perinatal Medicine. 2020 Apr; 48: 376-383 | Original Article |
| 95 | 東山綾 | 先進循環器診査室医長 | Echocardiographic Parameters and the Risk of Incident Atrial Fibrillation: The Suita Study | Journal of Epidemiology. 2020 Apr; 30: 183-187 | Original Article |
| 96 | 森啓悦 | 血管生理学部 | Pristane/Hypoxia (PriHx) Mouse as a Novel Model of Pulmonary Hypertension Reflecting Inflammation and Fibrosis | Circulation Journal. 2020 Jun; 84: 1163-1172 | Original Article |
| 97 | 林浩也 | 臨床研究開発部 | Impact of Comorbidity of Chronic Obstructive Pulmonary Disease on Cardiovascular Events and Prognosis in Patients with Chronic Heart Failure: A Single-Center Retrospective Observational Study | International Journal of Gerontology. 2020 Nov; 14: 298-303 | Original Article |
| 98 | 進藤一紘 | 臨床研究開発部 | Artificial Intelligence Uncovered Clinical Factors for Cardiovascular Events in Myocardial Infarction Patients with Glucose Intolerance | Cardiovascular Drugs and Therapy. 2020 Aug; 34: 535-545 | Original Article |
| 99 | 井原大 | 分子生理部 | Expression of Hey2 transcription factor in the early embryonic ventricles is controlled through a distal enhancer by Tbx20 and Gata transcription factors | Developmental Biology. 2020 May; 461: 124-131 | Original Article |

| | | | | | |
|-----|------|---------------|---|--|------------------|
| 100 | 安部倉友 | 分子薬理部 | Eicosapentaenoic acid prevents the progression of intracranial aneurysms in rats | Journal of Neuroinflammation. 2020 Apr; 17: 129 | Original Article |
| 101 | 堀美香 | 動脈硬化研究室長(任期付) | The first Japanese cases of familial hypercholesterolemia due to a known pathogenic APOB gene variant, c.10580 G>A: p.(Arg3527Gln) | Journal of Clinical Lipidology. 2020 Jul-Aug; 14: 482-486 | Original Article |
| 102 | 堀美香 | 動脈硬化研究室長(任期付) | The benign c.344G > A: p.(Arg115His) variant in the LDLR gene interpreted from a pedigree-based genetic analysis of familial hypercholesterolemia | Lipids in Health and Disease. 2020 Apr; 19: 62 | Original Article |
| 103 | 秋山大地 | 人工臓器部 | Preclinical biocompatibility study of ultra-compact durable ECMO system in chronic animal experiments for 2 weeks | Journal of Artificial Organs. 2020 Dec; 23: 335-341 | Original Article |
| 104 | 西川拓也 | 上級研究員 | Prediction of haemodynamics after interatrial shunt for heart failure using the generalized circulatory equilibrium | ESC Heart Failure. 2020 Oct; 7: 3075-3085 | Original Article |
| 105 | 神戸裕介 | 生体医工学部上級研究員 | Adipose tissue regeneration in a 3D-printed poly(lactic acid) frame-supported space in the inguinal region of rats | Bio-Medical Materials and Engineering. 2020 Sep; 31: 203-210 | Original Article |
| 106 | 神戸裕介 | 生体医工学部上級研究員 | Beta-sheet content significantly correlates with the biodegradation time of silk fibroin hydrogels showing a wide range of compressive modulus | Polymer Degradation and Stability. 2020 Sep; 179: 109240 | Original Article |

| | | | | | |
|-----|------|------------|--|--|------------------|
| 107 | 岩上直嗣 | 予防医学・疫学情報部 | Optimal sampling in derivation studies was associated with improved discrimination in external validation for heart failure prognostic models | Journal of Clinical Epidemiology. 2020 May; 121: 71-80 | Original Article |
| 108 | 菅根裕紀 | 予防医学・疫学情報部 | Cardiac outcomes in patients with acute coronary syndrome attributable to calcified nodule | Atherosclerosis. 2021 Feb; 318: 70-75 | Original Article |
| 109 | 土井貴仁 | 冠疾患科医師 | Patients with LDLR and PCSK9 Gene Variants Experienced Higher Incidence of Cardiovascular Outcomes in Heterozygous Familial Hypercholesterolemia | Journal of the American Heart Association. 2021 Feb; 10: e018263 | Original Article |
| 110 | 丸目恭平 | 予防医学・疫学情報部 | Prognostic impact of multiple fragmented QRS on cardiac events in idiopathic dilated cardiomyopathy | Europace. 2021 Feb; 23: 287-297 | Original Article |
| 111 | 中島啓裕 | 特任研究員 | Novel Non-Invasive Index for Prediction of Responders in Cardiac Resynchronization Therapy Using High-Resolution Magnetocardiography | Circulation Journal. 2020 Nov; 84: 2166-2174 | Original Article |
| 112 | 横山靖浩 | 循環器病専門修練医 | Subcutaneous and transvenous implantable cardioverter defibrillator in high-risk long-QT syndrome type 3 associated with Val411Met mutation in SCN5A | Journal of Cardiology Cases. 2020 Aug; 22: 238-241 | Case report |
| 113 | 木村晃久 | 心不全科 | A Case report of primary cardiac fibroma: an effective approach for diagnosis and therapy of a pathologically benign tumour with an unfavourable prognosis | European Heart Journal: Case reports. 2020 Jul; 4: 1-5 | Case report |

| | | | | | |
|-----|------|-------|--|---|------------------|
| 114 | 池之内初 | レジデント | Postprandial cerebral infarction resolved by extracranial-intracranial bypass surgery | eNeurologicalSci. 2020 Oct; 21: 100283 | Case report |
| 115 | 池之内初 | レジデント | Cerebral embolism accompanied by remarkable diffusion-weighted imaging reversal in a 10 month-old infant with congenital heart disease | eNeurologicalSci. 2020 Aug; 20: 100260 | Case report |
| 116 | 大和恵子 | 分子病態部 | Low-Dose Activated Protein C Suppresses the Development of Cerebral Infarction and Neurological Deficits in Mice | Neurosurgery Open. 2020 Oct; 1: okaa014 | Original Article |
| 117 | 公平瑠奈 | レジデント | Various head rotations for ultrasonographic diagnosis of bilateral bow hunter's syndrome | Acta Neurologica Belgica. 2020 Aug; 120: 1003-1005 | Letter |
| 118 | 前田拓真 | 脳神経外科 | A Case of Internal Carotid Artery Dissection with Ischemic Onset, Followed by Subarachnoid Hemorrhage during Diagnostic Angiography | Journal of Neuroendovascular Therapy. 2020 Oct; 14: 420-427 | Case report |
| 119 | 前田拓真 | 脳神経外科 | Clinical Outcome of Elderly Patients with Subarachnoid Hemorrhage: Validation of Modality Assignment Based on Aneurysmal Morphology and Location | World Neurosurgery. 2020 Nov; 143: e419-e429 | Original Article |
| 120 | 清水寛平 | 脳神経外科 | Hemodynamic Force as a Potential Regulator of Inflammation-Mediated Focal Growth of Saccular Aneurysms in a Rat Model | Journal of Neuropathology & Experimental Neurology. 2021 Jan; 80: 79-88 | Original Article |

| | | | | | |
|-----|-------|------------|---|--|------------------|
| 121 | 古谷翼 | 非常勤医師 | Serial changes of tricuspid regurgitation after anatomic repair for congenitally corrected transposition | European Journal of Cardio-Thoracic Surgery. 2020 Jul; 58: 163-170 | Original Article |
| 122 | 安川峻 | 非常勤医師 | Interstage management of pulmonary blood flow after the Norwood procedure with right ventricle-to-pulmonary artery conduit | European Journal of Cardio-Thoracic Surgery. 2020 Sep; 58: 551-558 | Case report |
| 123 | 矢作武蔵 | 麻酔科 | Transesophageal echocardiography in robot-assisted mitral valve repair for Barlow's disease: usefulness for predicting artificial ring size and artificial chordae length using the loop technique | JA Clinical Reports. 2020 Jul; 6: 56 | Original Article |
| 124 | 藤井祐 | 予防医学・疫学情報部 | Sizing of mitral annuloplasty rings using real-time three-dimensional transesophageal echocardiography and the difference between patients with and without recurrent mitral regurgitation: retrospective cohort study | Journal of Echocardiography. 2020 Sep; 18: 169-174 | Original Article |
| 125 | 細田勇人 | 放射線部 | Correction to: Three-dimensional assessment of coronary high-intensity plaques with T1-weighted cardiovascular magnetic resonance imaging to predict periprocedural myocardial injury after elective percutaneous coronary intervention | Journal of Cardiovascular Magnetic Resonance. 2020 Apr; 22: 27 | Original Article |
| 126 | 九社前実香 | 分子薬理部 | Involvement of neutrophils in machineries underlying the rupture of intracranial aneurysms in rats | Scientific Reports. 2020 Nov; 10: 20004 | Original Article |

| | | | | | |
|-----|----------|-------------|---|---|------------------|
| 127 | 古越真耶 | 人工臓器部 | Application of in-body tissue architecture-induced Biotube vascular grafts for vascular access: Proof of concept in a beagle dog model | The Journal of Vascular Access. 2020 May; 21: 314-321 | Original Article |
| 128 | 神戸裕介 | 生体医工学部上級研究員 | Artificial switching of the metabolic processing pathway of an etiologic factor, β 2-microglobulin, by a “navigator” molecule | Journal of Controlled Release. 2020 Nov; 327: 8-18 | Original Article |
| 129 | 村田峻輔 | 予防医学・疫学情報部 | Functional Decline and Body Composition Change in Older Adults With Alzheimer Disease: A Retrospective Cohort Study at a Japanese Memory Clinic | Alzheimer Disease & Associated Disorders. 2021 Jan-Mar; 35: 36-43 | Original Article |
| 130 | 太田直孝 | バイオバンク | Morphological Characteristics of Aortic Stenosis in Familial Hypercholesterolemia and Non-Familial Hypercholesterolemia in the Elderly | Journal of Integrative Cardiology Open Access. 2020 Apr; 3: | Original Article |
| 131 | 藤原祥高 | 発生工学研究室長 | Spermatozoa lacking Fertilization Influencing Membrane Protein (FIMP) fail to fuse with oocytes in mice | Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America. 2020 Apr; 117: 9393-9400 | Original Article |
| 132 | 和田晋一 | 上級研究員 | Concentrations of dabigatran administered after acute ischemic stroke | Journal of the Neurological Sciences. 2020 Apr; 411: 116704 | Original Article |
| 133 | 大野聖子 | 分子生物学部長 | An NGS-based genotyping in LQTS; minor genes are no longer minor | Journal of Human Genetics. 2020 Dec; 65: 1083-1091 | Original Article |
| 134 | 園田桂子 | 分子生物学部上級研究員 | SCN5A mutation identified in a patient with short-coupled variant of torsades de pointes | PACE-Pacing and Clinical Electrophysiology. 2020 May; 43: 456-461 | Case report |
| 135 | 樋口(江浦)由佳 | 上級研究員 | Derlin-3 Is Required for Changes in ERAD Complex Formation under ER Stress | International Journal of Molecular Sciences. 2020 Aug; 21: 6146 | Original Article |

| | | | | | |
|-----|------|----------|---|---|------------------|
| 136 | 中岡良和 | 血管生理学部長 | Long-term efficacy and safety of tocilizumab in refractory Takayasu arteritis: final results of the randomized controlled phase 3 TAKT study | Rheumatology. 2020 Sep; 59: 2427-2434 | Original Article |
| 137 | 川田 徹 | 循環制御研究室長 | Contribution of afferent pathway to vagal nerve stimulation-induced myocardial interstitial acetylcholine release in rats | American Journal of Physiology-Regulatory, Integrative and Comparative Physiology. 2020 Nov; 319: R517-R525 | Original Article |
| 138 | 上村和紀 | 循環動態研究室長 | Comprehensive analysis of effective reflection distance and its association with wave reflection strength under diverse hemodynamic conditions in anesthetized dogs | Journal of Biomechanics. 2020 May; 104: 109753 | Original Article |
| 139 | 川田徹 | 循環制御研究室長 | Open-loop analysis on sympathetically mediated arterial pressure and urine output responses in rats: effect of renal denervation | The Journal of Physiological Sciences. 2020 Jun; 70: 32 | Original Article |
| 140 | 馬原淳 | 組織工学研究室長 | Arg-Glu-Asp-Val Peptide Immobilized on an Acellular Graft Surface Inhibits Platelet Adhesion and Fibrin Clot Deposition in a Peptide Density-Dependent Manner | ACS Biomaterials Science & Engineering. 2020 Apr; 6: 2050-2061 | Original Article |
| 141 | 馬原淳 | 組織工学研究室長 | Small-Diameter Synthetic Vascular Graft Immobilized with the REDV Peptide Reduces Early-Stage Fibrin Clot Deposition and Results in Graft Patency in Rats | Biomacromolecules. 2020 Aug; 21: 3092-3101 | Original Article |
| 142 | 馬原淳 | 組織工学研究室長 | Visualising brain capillaries in magnetic resonance images via supramolecular self-assembly | Chemical Communications. 2020 Oct; 56: 11807-11810 | Original Article |

| | | | | | |
|-----|------|-------------|--|---|------------------|
| 143 | 馬原淳 | 組織工学研究室長 | Modification of decellularized vascular xenografts with 8-arm polyethylene glycol suppresses macrophage infiltration but maintains graft degradability | Journal of Biomedical Materials Research Part A. 2020 Oct; 108: 2005–2014 | Original Article |
| 144 | 小山勲 | 脂質基準分析室員 | A method for measuring glycerol-blanked triglyceride concentrations by using gas chromatography–isotope dilution mass spectrometry | Annals of Clinical Biochemistry. 2020 May; 57: 253–261 | Original Article |
| 145 | 山本由美 | 病態代謝部 | Neuronal densities and vascular pathology in the hippocampal formation in CADASIL | Neurobiology of Aging. 2021 Jan; 97: 33–40 | Original Article |
| 146 | 渡邊裕介 | 細胞生理研究室長 | Importance of endothelial Hey1 expression for thoracic great vessel development and its distal enhancer for Notch-dependent endothelial transcription | Journal of Biological Chemistry. 2020 Dec; 295: 17632–17645 | Original Article |
| 147 | 丸山慶子 | 特任研究員 | Carrier frequencies of antithrombin, protein C, and protein S deficiency variants estimated using a public database and expression experiments | Research and Practice in Thrombosis and Haemostasis. 2021 Jan; 5: 179–186 | Original Article |
| 148 | 塚村篤史 | 派遣研修生 | Neuroepithelial cell competition triggers loss of cellular juvenescence | Scientific Reports. 2020 Oct; 10: 18044 | Original Article |
| 149 | 稲垣薫克 | 血管生理学部上級研究員 | Evaluation of right coronary vascular dysfunction in severe pulmonary hypertensive rats using synchrotron radiation microangiography | American Journal of Physiology–Heart and Circulatory Physiology. 2021 Mar; 320: H1021–H1036 | Original Article |

| | | | | | |
|-----|-----|--------|--|---|------------------|
| 150 | 正木豪 | 非常勤研究員 | Aryl hydrocarbon receptor is essential for the pathogenesis of pulmonary arterial hypertension | Proceedings of the National Academy of Sciences of the United States of America. 2021 Mar; 118: e2023899118 | Original Article |
| ～ | | | | | |

計150件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る。)

3 「発表者氏名」に関しては、英文で、筆頭著者を先頭に論文に記載された順に3名までを記載し、それ以上は、他、またはet al.とする。

4 「筆頭著者の所属」については、和文で、筆頭著者の特定機能病院における所属を記載すること。

5 「雑誌名・出版年月等」欄には、「雑誌名. 出版年月(原則雑誌掲載月とし、Epub ahead of printやin pressの掲載月は認めない); 巻数: 該当ページ」の形式で記載すること
(出版がオンラインのみの場合は雑誌名、出版年月(オンライン掲載月)の後に(オンライン)と明記すること)。

記載例: Lancet. 2015 Dec; 386: 2367-9 / Lancet. 2015 Dec (オンライン)

6 「論文種別」欄には、Original Article、Case report、Review、Letter、Othersから一つ選択すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

| 番号 | 発表者氏名 | 筆頭著者の 特定機能病院における所属 | 題名 | 雑誌名・ 出版年月等 | 論文種別 |
|----|-------|-----------------------|----|---------------|------------------|
| 1 | | | | | Original Article |
| 2 | | | | | Case report |
| 3 | | | | | |
| ～ | | | | | |

計 件

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 記載方法は、前項の「高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文」の記載方法に準じること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

| | |
|--|---------|
| ① 倫理審査委員会の設置状況 | ○有・無 |
| ② 倫理審査委員会の手順書の整備状況 | ○有・無 |
| ・ 手順書の主な内容 「倫理委員会の運営」、「委員会の責務」、「倫理審査予備調査」、「審査の方法」、「研究許可申請手続き」、「迅速審査」、「研究者等の責務」、「実施状況報告の審査」等 | |
| ③ 倫理審査委員会の開催状況 | 年 1 1 回 |

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

2 前年度の実績を記載すること。

(2) 利益相反を管理するための措置

| | |
|---|-------|
| ① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況 | ○有・無 |
| ② 利益相反の管理に関する規定の整備状況 | ○有・無 |
| ・ 規定の主な内容 「利益相反マネジメントの対象」、「職員等の責務」、「利益相反マネジメント委員会所掌事項」、「調査結果に基づく処置」、「異議申立て」等 | |
| ③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況 | 年 2 回 |

(注) 前年度の実績を記載すること。

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

| | |
|--|-------|
| ① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況 | 年 2 回 |
| ・ 研修の主な内容 「医学系研究と個人情報保護」「臨床研究倫理の基礎」 ※e-ラーニングで視聴可 | |

(注) 前年度の実績を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

| |
|---|
| 心臓血管内科部門プログラム 不整脈科、肺循環科、心不全科、冠疾患科、血管科、重症心不全・心臓移植、循環器救急 |
| 心臓血管外科部門プログラム |
| 脳血管部門プログラム 脳血管内科・脳神経内科、脳神経外科 |
| 小児循環器科・産婦人科部門プログラム 小児循環器内科コース、産婦人科コース、小児心臓外科コース、新生児小児集中治療コース、 成人先天性心疾患コース |
| 生活習慣病部門プログラム 腎臓・高血圧内科、糖尿病・脂質代謝内科、健診部、予防医療部 |
| 中央診療部門プログラム 心血管リハビリテーション科コース・病理コース・麻酔科コース・放射線コース・ 外科系集中治療科（ICU）コース |

（注）上記の研修内容は医師法及び歯科医師法の規定による臨床研修を終了した医師及び歯科医師に対する専門的な研修について記載すること。

2 研修の実績

| | | |
|-------------|-----|---|
| 上記研修を受けた医師数 | 129 | 人 |
|-------------|-----|---|

（注）前年度の研修を受けた医師の実績を記入すること。

3 研修統括者

| 研修統括者氏名 | 診療科 | 役職等 | 臨床経験年数 | 特記事項 |
|---------|------------|------------------|--------|-----------|
| 野口 暉夫 | 心臓血管内科 | 副院長 | 33 年 | |
| 豊田 一則 | 脳血管・神経内科 | 副院長 | 34 年 | |
| 黒埼 健一 | 小児循環器科 | 小児循環器部特任 部長 | 34 年 | |
| 藤田 知之 | 心臓血管外科 | 心臓血管外科部門 長 | 27 年 | |
| 市川 肇 | 小児心臓外科 | 小児心臓外科部長 | 37 年 | |
| 片岡 大治 | 脳神経外科 | 脳神経外科部長 | 27 年 | |
| 吉原 史樹 | 腎臓・高血圧内科 | 腎臓・高血圧内科 部長 | 32 年 | |
| 細田 公則 | 糖尿病・脂質代謝内科 | 糖尿病・脂質代謝 内科部長 | 37 年 | |
| 吉松 淳 | 産婦人科 | 産婦人科部長 | 34 年 | |
| 福田 哲也 | 放射線科 | 放射線部長 | 26 年 | |
| 大西 佳彦 | 麻酔科 | 副院長 | 38 年 | |
| 畠山 金太 | 病理診断科 | 病理部長 | 31 年 | |
| | 精神科 | | | 研修プログラム無し |
| | 呼吸器内科 | | | 研修プログラム無し |

| | | | | |
|--|-------|--|--|-----------|
| | 整形外科 | | | 研修プログラム無し |
| | 皮膚科 | | | 研修プログラム無し |
| | 泌尿器科 | | | 研修プログラム無し |
| | 眼科 | | | 研修プログラム無し |
| | 耳鼻咽喉科 | | | 研修プログラム無し |
| | 歯科 | | | 研修プログラム無し |

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

| |
|--|
| ① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意） |
| <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容：薬剤部レジデントコース、臨床検査技師レジデントコース・研修の期間・実施回数：薬剤 2 年間、臨床検査 3 年間・研修の参加人数：薬剤 3 人、臨床検査 2 人 |
| ② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意） |
| <ul style="list-style-type: none">・研修の主な内容・研修の期間・実施回数・研修の参加人数 |
| ③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況 |
| <p>・研修の主な内容：①大阪府看護協会 認定看護管理者教育課程、②大阪府病院協会 看護職員実務者研修、③小児薬物療法認定薬剤師制度必須実務研修</p> <p>・研修の期間・実施回数：①令和2年11月4日、②令和2年11月16日～18日、③令和2年9月17日・24日</p> <p>・研修の参加人数：①1名、②40名、③2名</p> |

(注) 1 高度の医療に関する研修について、前年度実績を記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

| | |
|---------|--|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 ②. 現状 |
| 管理責任者氏名 | 病院長 飯原 弘二 |
| 管理担当者氏名 | 総務課長：西川 祐史、医事室長：井ノ本 洋平、医療情報部長：平松 治彦、 薬剤部長：早川 直樹 |

| | | 保 管 場 所 | | 管 理 方 法 |
|------------------|--------------------|--|------------|---|
| 診療に関する諸記録 | 規則第二十二條の三第二項に掲げる事項 | 病院日誌 | 医事室 | 平成24年1月より診療記録は電子保存（電子カルテ）としている。従前のカルテ、X線フィルム等については1患者1ファイル方式とし、集中管理している。診療録等の院外持ち出しは原則禁止としている。病院長の許可を得た場合のみ可能としている。 |
| | | 各科診療日誌 | 各診療科、看護部 | |
| | | 処方せん | 薬剤部 | |
| | | 手術記録 | 医療情報部 | |
| | | 看護記録 | 医療情報部 | |
| | | 検査所見記録 | 医療情報部 | |
| | | エックス線写真 | 医療情報部 | |
| | | 紹介状 | 医療情報部 | |
| | | 退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書 | 医療情報部 | |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第二十二條の三第三項に掲げる事項 | 従業者数を明らかにする帳簿 | 人事課 | 紙媒体及びデータにて各課で保存 |
| | | 高度の医療の提供の実績 | 医事室 | |
| | | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 研究医療課 | |
| | | 高度の医療の研修の実績 | 研究医療課 | |
| | | 閲覧実績 | 情報管理室 | |
| | | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 医事室 | |
| | 規則第一條の十一第一項に掲げる事項 | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 医事室 薬剤部 | 紙媒体及びデータにて保存 |
| | | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 医療安全管理室 | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | 保 管 場 所 | 管 理 方 法 |
|------------------|-----------------------------|---|---------|---------------------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項 | 院内感染対策のための指針の策定状況 | 感染対策室 | 紙媒体及びデータにて 各室で保存 |
| | | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 感染対策室 | |
| | | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 感染対策室 | |
| | | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 感染対策室 | |
| | | 医薬品安全管理責任者の配置状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 医療機器安全管理責任者の配置状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | 医療安全管理室 | |
| | | 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 医療安全管理室 | |

| | | 保 管 場 所 | 管 理 方 法 |
|---------------------------------|--|--|---------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第九条の二十の二第二項第一号から第十三号まで及び第十五条の四各号に掲げる事項 | 医療安全管理責任者の配置状況 | 医療安全管理室 |
| | | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 感染対策室 |
| | | 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 | 医療安全管理室 |
| | | 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 | 医療安全管理室 |
| | | 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 | 情報管理室 |
| | | 医療安全管理部門の設置状況 | 医療安全管理室 |
| | | 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 | 研究医療課 |
| | | 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況 | 研究医療課 |
| | | 監査委員会の設置状況 | 医事室 |
| | | 入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況 | 医療安全管理室 |
| | | 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 | 医療安全管理室 |
| | | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 医事室 |
| | | 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況 | 医療安全管理室 |
| | | 職員研修の実施状況 | 医療安全管理室 |
| | | 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況 | 医療安全管理室 |
| 管理者が有する権限に関する状況 | 総務課 | | |
| 管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況 | 総務課 | | |
| 開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の整備状況 | 総務課 | | |
| | | 紙媒体及びデータにて各課で保存 | |

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | | | |
|---------------------------|------------------------|------|--|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 | ② 現状 | |
| 閲覧責任者氏名 | 医療情報部長：平松 治彦 | | |
| 閲覧担当者氏名 | 総務課長：西川 祐史、医事室長：井ノ本 洋平 | | |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 診療録等開示閲覧室 | | |
| 閲覧の手続の概要 | | | |
| 円滑な運用を確保するため、情報公開窓口を設置し運用 | | | |
| ① 開示申請者から所定の申請書提出 | | | |
| ② 申請書を受けて開示・不開示の決定 | | | |
| ③ 申請者に対し開示・不開示の決定通知書の送付 | | | |
| ④ 当該文書等の閲覧 | | | |

(注)既に医療法施行規則第9条の20第5号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | | |
|-----------|--------|---|----|
| 前年度の総閲覧件数 | | 延 | 0件 |
| 閲覧者別 | 医師 | 延 | 0件 |
| | 歯科医師 | 延 | 0件 |
| | 国 | 延 | 0件 |
| | 地方公共団体 | 延 | 0件 |

(注)特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

規則第1条の11 第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|-------|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | (有)・無 |
| <p>・ 指針の主な内容：</p> <p>第1章【1.趣旨 2.医療安全の基本的な考え方 3.医療安全に係る安全管理のための委員会・組織に対する基本的事項 4.患者からの相談への対応に関する基本方針 5.医療従事者と患者との情報の共有に関する基本方針 6.センターにおける事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策に関する基本方針 7.医療事故発生時の対応に関する基本方針 8.医療に係る安全管理のための職員に対する研修に関する基本方針 9.その他の医療の安全の確保のための基本方針】</p> <p>第2章は、用語の定義、第1章2～9の実務的内容を記す。 【医療安全管理の具体的内容 1.医療安全推進の原則 2.医療安全管理体制、推進活動 3.用語の定義 4.院愛危機管理体制・対応 1)直ちに口頭1報を要する事案 2)インシデント・医療事故等の報告、分析、改善、情報共有 3)重症回診及び医療事故発生時の対応 4)緊急報告事案 5)医療事故発生時の対応で留意する事項 6)職員への周知 5.教育研修 6.患者家族からの相談時の対応 7.その他医療安全推進活動】</p> | |
| <p>② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況</p> <p>・ 設置の有無 (有)・無)</p> <p>・ 開催状況：年12回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>7)医療安全管理指針の制定、改訂に関する事。i)医療安全管理に関する職員への教育・研修に関する事。j)医療安全確保を目的とした改善のための検討に関する事。k)医療事故等重大な問題が発生した場合の対応に関する事。l)医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び評価、見直しに関する事。m)医療安全管理に関する研究、広報、院外活動に関する事。n)医療安全上の訴訟に関する事。o)診療に関する患者・家族からの意見、要望に関する事。p)その他医療安全管理に関する事等</p> | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年2回 |
| <p>・ 研修の内容(すべて)：</p> <p>全職員対象医療安全講習会 第1回：R2年5月25日～7月17日 e-ラーニング 「患者のナラティブから医師-患者間の効率的なコミュニケーションを考える」 第2回：R2年11月11日～12月4日 e-ラーニング 「医療安全の基本と国際潮流について」</p> | |
| <p>④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況</p> <p>・ 医療機関内における事故報告等の整備 (有)・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療安全管理室コア会議のメンバーがコメディカルを含む構成になっており、コア会議で検討した上、医療安全推進担当者会議や院内事例検討会等の意見を集約、改善策を検討し、医療安全管理委員会で決定し職員へ周知している。</p> | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第1号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|---------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | ①・無 |
| <p>・ 指針の主な内容：</p> <p>① 院内感染対策に関する基本的考え方 ②院内感染管理体制 ③職員研修 ④感染症の発生状況の報告 ⑤院内感染発生時の対応 ⑥患者への情報提供と説明 ⑦その他の院内感染対策の推進</p> | |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 年 1 2 回 |
| <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>①院内感染症の調査、予防対策の立案 ②予防対策実施の監視と助言、指導、勧告 ③職員の教育指導 ④院内感染対策の指針及びマニュアルの作成・見直し ⑤その他委員長が必要と認める事項</p> | |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 年 2 回 |
| <p>・ 研修の内容（すべて）：</p> <p>全職員対象：①秋冬の感染症流行期に備えて ②冬の感染症 with コロナ 抗菌薬適正使用支援チーム活動報告</p> | |
| ④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況 | |
| <p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 (①・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>菌検出状況やサーベイランスの結果については、感染対策委員会内で定期報告を行い、情報共有している。 アウトブレイクを疑う場合には、感染対策室に報告がされ、感染対策室は情報収集・状況確認等を行ったのち、必要に応じて感染対策委員会を開催し、原因究明及び感染拡大防止対策の立案を行う。加えて、必要に応じて現地調査を行い、状況を逐一院長に報告する。</p> <p>感染対策リンクナース会に加え、リンクドクター会、リンクコメディカル会を発足し、適宜注意喚起等を行いながら、全部門で感染対策推進に取り組んでいる。</p> | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11 第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|-------|
| ① 医薬品安全管理責任者の配置状況 | (有)・無 |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年3回 |
| <p>・ 研修の主な内容：</p> <p>医薬品の安全使用について 医薬品におけるリスクマネジメント 麻薬・毒薬・向精神薬等管理薬品の取り扱いについて</p> | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | |
| <p>・ 手順書の作成 (有)・無)</p> <p>・ 手順書の内訳に基づく業務の主な内容：</p> <p>1 医薬品の採用 2 医薬品の購入 3 調剤室における医薬品の管理 4 病棟・各部門への医薬品の供給 5 外来患者への医薬品使用 6 病棟における医薬品の管理 7 入院患者への医薬品使用 8 医薬品情報の収集・管理・提供 9 手術・麻酔部門 10 集中治療室 (ICU・NCU) 11 輸血・血液管理部門 12 生命維持管理装置領域 13 臨床検査部門、画像診断部門 14 歯科領域 15 他施設との連携 16 在宅患者への医薬品使用 17 放射性医薬品 18 院内製剤 19 重大な有害事象の予防・対応 20 事故発生時の対応 21 教育・研修 22 医薬品関連の情報システムの利用</p> <p>医薬品安全管理責任者は手順書に従った業務遂行について確認し、行われていない場合は改善を指導、また必要に応じて手順の改定を行っている。</p> | |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有)・無)</p> <p>・ 未承認等の医薬品の具体的な使用事例 (あれば)：</p> <p>アビガン錠の適応外使用 (COVID-19) オルドレブ点滴静注用の適応外使用 (二剤耐性緑膿菌による肺炎患者に対しての吸入療法)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品メーカーおよび医薬品医療機器総合機構等から随時情報を収集 ・ 随時、医薬品の安全使用のためのお知らせを電子カルテメールで配信 さらに内容によって全医師あてにメール配信 医療安全推進担当者会議、医療安全管理委員会で周知 ・ 重要事項は、病棟担当薬剤師に依頼し、カンファレンスや病棟にて周知 ・ 必要に応じてシステムや手順の変更を行っている。 | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第1条の11第2項第3号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|---------|
| ① 医療機器安全管理責任者の配置状況 | (有)・無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年 6 1 回 |
| <ul style="list-style-type: none"> 研修の主な内容： <ul style="list-style-type: none"> ○第1回人工呼吸器講習会（モナールt-60、BiPAP、AVEA、DPAP、Hamilton他） ○第2回人工呼吸器講習会（モナールt-60、BiPAP、AVEA、DPAP、Hamilton他） ○第1回補助人工心臓装置講習会 （jarvik2000、EVAHEART、HM-II、HM-3、H-VAD、バイオフィロート、ニプロVAD） ○第2回補助人工心臓装置講習会 （jarvik2000、EVAHEART、HM-II、HM-3、H-VAD、バイオフィロート、ニプロVAD） ○PCPS・IABP講習会 ○閉鎖式保育器講習会 ○サイクロトロン研修 他 | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 医療機器に係る計画の策定 ((有)・無) 機器ごとの保守点検の主な内容： <p>保守点検計画表に基づき、臨床工学技士若しくは委託業者により定期点検を実施している。 また、各使用部署において外観、作動状況等の日常点検を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○日常点検（始業時点検・使用中点検・終業時点検） ○定期点検（電氣的安全点検・外観点検・機能点検・性能点検・定期交換部品等交換等） ○故障時点検（定期点検に準じた点検を行い、故障箇所を特定する） | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集 その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none"> 医療機器に係る情報の収集の整備 ((有)・無) 未承認等の医療機器の具体的な使用事例（あれば） その他の改善のための方策の主な内容： <p>医薬品・医療機器安全情報をはじめ、メーカーからの提供情報、インターネットによる情報検索により、医療機器の安全使用関連情報を収集し、医療安全委員会等で資料を配付し、各職場で伝達している。 伝達状況については伝達確認票を回収し、確認している。</p> | |

(注) 前年度の実績を記入すること。

規則第9条の20の2第1項第1号から第13号の二に掲げる事項の実施状況

| | |
|--|--------------|
| ① 医療安全管理責任者の配置状況 | (有) 無 |
| <p>・ 責任者の資格 (医師・歯科医師)</p> <p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理担当副院長（医師）を医療安全管理責任者として配置している</p> | |
| ② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | (有) (3名) ・ 無 |
| <p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医薬品メーカーおよび医薬品医療機器総合機構等から随時情報を収集 ・ 随時、医薬品の安全使用のためのお知らせを電子カルテメールで配信 <p>さらに内容によって医師あてにメール配信</p> <p>医療安全推進担当者会議、医療安全管理委員会で周知</p> <p>医療安全推進担当者会議は伝達確認票にて各部署への伝達を確認している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 重要事項は、病棟担当薬剤師に依頼し、カンファレンスや病棟にて周知を行い、伝達確認票に押印し、伝達状況を確認している <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認等の医薬品の使用についての申請を受け、医薬品安全管理責任者が室員である新規医療評価室にて委員会を開催し申請内容を議論し、さらに病院倫理委員会に意見を求め、使用の可否の決定を行っている。また、病棟薬剤業務にて薬剤師が把握したものは、処方必要性、論文等の根拠に基づくリスクの検討の有無、処方の妥当性等を必要に応じて医師に確認し、医薬品安全管理責任者に報告する。医薬品安全管理責任者は必要に応じて医師に指導等を行い、院内に必要な情報の共有等を行う。</p> <p>・ 担当者の指名の有無 (有) ・ 無)</p> <p>・ 担当者の所属・職種：薬剤師</p> <p>(所属： , 職種) (所属： , 職種)</p> <p>(所属： , 職種) (所属： , 職種)</p> <p>(所属： , 職種) (所属： , 職種)</p> | |

| | |
|---|------|
| (所属： , 職種) (所属： , 職種) | |
| ④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 | ①有・無 |
| <p>・ 医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (①有・無)</p> <p>・ 説明等の実施に必要な方法に関する規程に定められた事項の遵守状況の確認、及び指導の主な内容： 説明事項・説明範囲・成立要件・手順・留意事項について監査結果を委員会にて報告</p> | |

| | |
|---|------|
| ⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 | ①有・無 |
| <p>・ 診療録等の記載内容の確認、及び指導の主な内容：</p> <p>診療情報管理室長の監督のもと、診療情報管理士が診療録等を管理し、責任者の医療情報統括部長に報告している</p> | |
| ⑥ 医療安全管理部門の設置状況 | ①有・無 |
| <p>・ 所属職員：専従（ 3 ）名、専任（ 2 ）名、兼任（ 2 ）名 うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名 うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名 うち看護師：専従（1）名、専任（2）名、兼任（ ）名</p> <p>（注）報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療安全の確保を目的とした改善のための検討に関すること ・ 医療事故等重大な問題が発生した場合の対応に関すること ・ 医療事故の分析及び再発防止策の検討並びに立案された防止対策及び改善策の実施状況の調査及び評価、見直しに関すること ・ 重大な医療事故等の発生等委員長が必要と判断した場合は、適宜開催できるものとする。 ・ 月に1回開催する医療安全推進担当者会議の重要伝達内容、インシデント・アクシデント報告、注意喚起、医薬品安全管理・医療機器安全管理・放射線安全管理に関する報告・連絡事項などを、各診療科・各部門リスクマネージャーから各部署の従事者全員に周知している。 <p>各リスクマネージャーは、電子媒体において伝達報告書に伝達終了日を記載、署名し、医療安全管理室へ提出している。</p> | |

- ・診療モニタリングについては、毎年１月～12月の１年間のデータを取りまとめ、ホームページ上に掲載している。
 - ・全職員を対象とした医療安全講習会を年間２回以上開催し、受講状況を確認している。R2年度からは、covid-19感染防止対策より、Eラーニングで①講義を視聴②小テスト③アンケート調査を実施している。
- 医療安全に対する認識について、意識調査のモニタリングを行っている。

※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。
 ※ 医療安全管理委員会において定める医療安全に資する診療内容及び従事者の医療安全の認識についての平時からのモニタリングの具体例についても記載すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の高難度新規医療技術を用いた医療の申請件数（１件）、及び許可件数（１件）
- ・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）
- ・活動の主な内容：

１件の申請に対し新規医療評価室会議で審議後に病院倫理委員会へ審議申請し、病院倫理委員会では評価した結果、申請医療について適当と認めた。また、遵守状況を確認して会議で報告した。継続課題１件（令和元年度からの治験）については実施症例がなかったことも会議で報告した。
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）
- ・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・前年度の未承認新規医薬品等を用いた医療の申請件数（０件）、及び許可件数（０件）
- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（☒有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医

薬品等の使用条件を定め使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（☒有・無）

・活動の主な内容：

原則として診療科等におけるカンファレンス等において検討を行った後、診療科の長より新規医療評価室に申請を行う。新規医療評価室は病院倫理委員会に意見を求め、病院倫理委員会は使用に関する倫理的・科学的妥当性及び適切な使用方法について審議し、使用の適否及び使用後に報告を求める症例数等について意見を述べる。意見を踏まえ新規医療評価室にて適否、使用の条件等を決定し、申請者に通知を行う。また、病院長に報告を行う。

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（☒有・無）

・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（☒有・無）

⑨ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況

・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年161件

・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年11件

・上記に関する医療安全管理委員会の活動の主な内容

数日以内に死亡に至る可能性がある患者に対して、医療安全担当副院長等による重症回診担当グループにより死亡に至る経緯に問題がないかどうか『重症回診』を行う。患者が死亡時には『死亡報告シート』に記載し、医療安全管理室、病院幹部への報告を行う。重症回診が実施されていない場合は、担当医師から、副院長、当該部長に報告する。合わせて『重症回診未実施報告シート』を記載し、医療安全管理室、病院幹部への報告を行う。通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したときは、『事例検討会』を開催し、原因、改善策について検討し、報告対象事案かどうか決定する。

⑩ 他の特定機能病院等の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況

・他の特定機能病院等への立入り（☒有（病院名：大阪医科大学附属病院）・無）

・他の特定機能病院等からの立入り受入れ（☒有（病院名：大阪医科大学附属病院）・無）

| |
|--|
| <p>・ 技術的助言の実施状況</p> <p>covid-19 感染防止対策のため、立ち入りではなく、書面による医療安全相互チェックを実施。 自己評価表に対する確認事項・質問事項と回答を行うことにて相互チェックを行った。</p> |
| <p>⑪ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p> |
| <p>・ 体制の確保状況</p> <p>患者相談窓口を設置して対応している。</p> |

| |
|--|
| <p>⑫ 職員研修の実施状況</p> |
| <p>・ 研修の実施状況</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新採用者研修（2020 年 4 月採用時、その他採用時 e-ラーニング） <p>内容：・ 国立循環器病研究センターにおける医療安全体制、病院組織、医療安全の基本的な考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 医療法施行規則第 1 条の 11 第 1 項 ・ 医療安全管理体制：職員研修、 ・ 当院の医療安全管理体制：インシデント・アクシデントの状況・取り組み インシデント・アクシデント報告、インシデントレポートの意義、インシデントレベル、報告経路、当院のインシデント発生状況・推移、誤薬についての取り組み、患者誤認防止対策、禁忌情報・誤認対策 ・ 特定機能病院に求められている事：ガバナンスの強化、内部通達報告、 インフォームド・コンセント ・ 医療安全講習会（年 2 回、e-ラーニング） <p>前期：「医療安全管理の全体像」2020 年 5 月 17 日～7 月 17 日</p> <p>後期：「医療安全の基本と国際潮流について」2020 年 11 月 11 日～12 月 4 日</p> |

（注）前年度の実績を記載すること（⑥の医師等の所属職員の配置状況については提出年度の10月1日の員数を記入すること）

| |
|---|
| <p>⑬ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況</p> |
| <p>・ 研修の実施状況</p> |

- ・ 日本医療機能評価機構が開催する研修を受講

管理者 2021 年 2 月 4 日, 医療安全管理責任者（医療安全管理担当副院長）2020 年 11 月 25 日

医薬品安全管理責任者 2020 年 12 月 10 日, 医療機器安全管理責任者 2020 年 11 月 11 日

（注）前年度の実績を記載すること

⑭医療機関内における事故の発生の防止に係る第三者による評価の受審状況、当該評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況、当該評価を踏まえ講じた措置の状況

- ・ 第三者による評価の受審状況

2022 年 1 月 日本医療機能評価機構 病院機能評価 受検予定

- ・ 評価に基づき改善のために講ずべき措置の内容の公表状況

ホームページにて公表予定

- ・ 評価を踏まえ講じた措置

（注）記載時点の状況を記載すること

規則第7条の2の2第1項各号に掲げる管理者の資質及び能力に関する基準

| |
|---|
| 管理者に必要な資質及び能力に関する基準 |
| <p>・ 基準の主な内容</p> <p>1 日本国の医師免許を有していること</p> <p>2 当センター病院又はセンター病院以外の病院において、以下のいずれかの業務に従事した経験及び医療安全管理に関する十分な知見を有するとともに、患者安全を第一に考える姿勢及び指導力を有していること</p> <p>ア 医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者の業務</p> <p>イ 医療安全管理委員会の構成員としての業務</p> <p>ウ 医療安全管理部門における業務</p> <p>エ その他上記に準ずる業務</p> <p>3 センター病院又はセンター病院以外の病院において、病院長又は副院長及びそれらに準ずる職のいずれかでの組織管理経験があり、高度の医療の提供、開発及び評価等を行う特定機能病院の管理運営上必要な資質及び能力を有していること</p> <p>4 センター病院の理念及び基本方針を十分に理解し、高い使命感を持って継続的かつ確実に職務を遂行する姿勢及び指導力を有していること</p> <p>・ 基準に係る内部規程の公表の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無)</p> <p>・ 公表の方法</p> <p>病院ホームページにて公表</p> |

規則第7条の3第1項各号に掲げる管理者の選任を行う委員会の設置及び運営状況

| | | | | |
|--|--|---------------|-------|--|
| 前年度における管理者の選考の実施の有無 | 有 ・ <input checked="" type="radio"/> 無 | | | |
| <p>・ 選考を実施した場合、委員会の設置の有無 (有 ・ 無)</p> <p>・ 選考を実施した場合、委員名簿、委員の経歴及び選定理由の公表の有無 (有 ・ 無)</p> <p>・ 選考を実施した場合、管理者の選考結果、選考過程及び選考理由の公表の有無 (有 ・ 無)</p> <p>・ 公表の方法</p> | | | | |
| 管理者の選任を行う委員会の委員名簿及び選定理由 | | | | |
| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 特別の関係 係 |
| 小川 久雄 | 国立循環器病研究 センター理事長 | ○ | 法人理事長 | <input checked="" type="radio"/> 有 ・ <input type="radio"/> 無 |

| | | | | |
|-------|--------------------------|--|--|--|
| 望月 直樹 | 国立循環器病研究センター理事・研究所長 | | 理事長が指名（理事（管理運営担当）） | <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 |
| 稲川 武宣 | 国立循環器病研究センター企画戦略局長 | | 理事長が指名（企画戦略局長） | <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 |
| 三井佐代子 | 国立循環器病研究センター病院看護部長 | | 理事長が指名（看護部長） | <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 |
| 荒川 哲雄 | 公立大学法人大阪副理事長 | | 大阪市立大学理事長として、医学・医療・病院運営について豊富な経験と高い識見を有する者 | 有 <input checked="" type="radio"/> 無 |
| 中井 國雄 | 独立行政法人国立病院機構理事（近畿グループ担当） | | 病院管理者として、医学・医療・病院運営について豊富な経験と高い識見を有する者 | 有 <input checked="" type="radio"/> 無 |
| 本田 邦章 | 讀賣テレビ放送株式会社顧問 | | 報道関係者として、医療・保健・福祉全般に豊富な経験と高い識見を有する者 | 有 <input checked="" type="radio"/> 無 |
| | | | | |

規則第9条の23第1項及び第2項に掲げる病院の管理及び運営を行うための合議体の設置及び運営状況

| | | | |
|---|---------------|-------|-------------------|
| 合議体の設置の有無 | | | ①・無 |
| <p>・合議体の主要な審議内容 名称：執行役員会 理事会で決定した重要事項を遂行するため、センターの所掌事務に関する事項の企画及び立案並びに調整に関する事務を総括整理するとともに、理事会の任務を補佐するため、センターの運営の方針、計画、予算及び決算その他のセンターの運営に関する重要な事項について審議する。</p> <p>・審議の概要の従業者への周知状況 各部署の部長等会議により、執行役員会での審議事項を報告し、各部署へ周知している。</p> <p>・合議体に係る内部規程の公表の有無（有・①・無） ・公表の方法</p> <p>・外部有識者からの意見聴取の有無（①・無） 執行役員会に、非常勤監事2名（公認会計士及び弁護士）がオブザーバー参加し、意見を述べていただいている。</p> | | | |
| 合議体の委員名簿 | | | |
| 氏名 | 委員長 (○を付す) | 職種 | 役職 |
| 大 津 欣 也 | ○ | 医 師 | 理事長 |
| 望 月 直 樹 | | 医 師 | 理事・研究所長 |
| 稲 川 武 宜 | | 事 務 | 企画戦略局長・企画経営部長 |
| 飯 原 弘 二 | | 医 師 | 病院長 |
| 野 口 輝 夫 | | 医 師 | 副院長 |
| 豊 田 一 則 | | 医 師 | 副院長 |
| 飯 原 弘 二 | | 医 師 | 副院長 |
| 宮 本 恵 宏 | | 医 師 | オープンイノベーションセンター長 |
| 巽 英 介 | | 医 師 | 副オープンイノベーションセンター長 |
| 中 山 鋼 | | 医 師 | 理事長特任補佐 |
| 曾 我 将 久 | | 事 務 | 総務部長・人事部長 |
| 柳 沢 直 樹 | | 事 務 | 財務経理部長 |
| 平 松 治 彦 | | 事 務 | 情報統括部長 |
| 木 村 尚 巧 | | 弁 護 士 | コンプライアンス室長 |
| 早 川 直 樹 | | 薬剤師 | 薬剤部長 |
| 空 山 直 子 | | 看護師 | 看護部長 |

規則第15条の4第1項第1号に掲げる管理者が有する権限に関する状況

管理者が有する病院の管理及び運営に必要な権限

- ・ 管理者が有する権限に係る内部規程の公表の有無（有・**無**）
- ・ 公表の方法

・ 規程の主な内容

人事委員会規程（管理者が副委員長）において、「特定機能病院としての機能を確保するために病院長が必要と認めた人事に関すること」を委員会での審議事項の一つとしている。

（人事委員会規程第6条五 特定機能病院としての機能を確保するために病院長が必要と認めた人事に関すること。）

また、理事会規程においては、「理事会において、国立循環器病研究センター病院の運営方針、中期計画、予算及び決算、その他の病院の運営に関する重要な事項が審議される際には、病院長は出席して意見を述べることができる。理事会は、その意見について十分審議した上で決定しなければならない。」としている。

（理事会規程第8条の2 理事会において、国立循環器病研究センター病院（以下「センター病院」という。）の運営方針、中期計画、予算及び決算、特定機能病院の業務に関する事項その他の病院の運営に関する重要な事項が審議される際には、病院長は出席して意見を述べるができる。）

- ・ 管理者をサポートする体制（副院長、院長補佐、企画スタッフ等）及び当該職員の役割

組織規程において、「副院長は、院長を助け、病院の事務を整理する」と規定している。
また、総務、人事、財務経理、企画経営等の各事務部門においても、管理者を積極的にサポートしている。

- ・ 病院のマネジメントを担う人員についての人事・研修の状況

国立病院機構、厚生労働省との人事交流により医療行政、病院の運営管理に精通する人材の確保に努めている。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 2 号に掲げる医療の安全の確保に関する監査委員会に関する状況

| | | | | | |
|---|-------------------------|--------------------|------------------------------|-------|---------------|
| 監査委員会の設置状況 | | | | | (有)・無 |
| <p>・ 監査委員会の開催状況：年 2 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>病院の医療安全にかかる活動報告、インシデント・アクシデント事例報告</p> <p>・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員名簿の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 委員の選定理由の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 監査委員会に係る内部規程の公表の有無 ((有)・無)</p> <p>・ 公表の方法：</p> <p>病院ホームページにて公表</p> | | | | | |
| 監査委員会の委員名簿及び選定理由 (注) | | | | | |
| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 利害関係 | 委員の要件 該当状況 |
| 後 信 | 九州大学病院 | 今年度はまだ未 開催のため未定 | 医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者 | 有・無 | 1 |
| 柴田 利彦 | 大阪市立大学 大学院 | | 医療に係る安全 管理に関する識 見を有する者 | 有・無 | 1 |
| 小島 崇宏 | 大阪 A&M 法律 事務所 | | 法律に関する識 見を有する者 | 有・無 | 1 |
| 國子 克雄 | 心を守る会 (患者代表) | | 医療を受ける者 の代表 | (有)・無 | 2 |
| 巽 英介 | 国立循環器病研究 センター副 OIC 長 | | 医療安全部外の 立場からの監査 | (有)・無 | 3 |

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号イに掲げる管理者の業務の執行が法令に適合することを確保するための体制の整備に係る措置

管理者の業務が法令に適合することを確保するための体制の整備状況

- ・体制の整備状況及び活動内容
コンプライアンス推進規程を整備し、管理者を含む役職員が全ての法令等を遵守し、社会規範を尊重するとともに、センターの業務活動が高い倫理性を持って行われることを確保するためのコンプライアンスの推進に必要な事項を定めている。
また、管理者を含む役職員の法令遵守の状況を検証するため、2 か月に 1 回コンプライアンス委員会を開催している。
- ・ 専門部署の設置の有無 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 内部規程の整備の有無 (☒ 有 ・ 無)
- ・ 内部規程の公表の有無 (有 ・ ☒ 無)
- ・ 公表の方法

規則第 15 条の 4 第 1 項第 3 号ロに掲げる開設者による業務の監督に係る体制の整備に係る措置

| | | | |
|--|----------------------------|---------------|---------------------------------------|
| 開設者又は理事会等による病院の業務の監督に係る体制の状況 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 病院の管理運営状況を監督する会議体の体制及び運営状況 <p>当センターの理事会において審議する事項として、業務方法書、中期計画・年度計画に関する事項、財務諸表・決算報告書及び事業報告書に関する事項等に加え、特定機能病院の業務に関する事項についても審議することとして理事会規程に定めている。</p> <p>また、同規程において「病院の運営方針、中期計画、予算及び決算、特定機能病院の業務に関する事項その他の病院の運営に関する重要な事項が審議される際には、病院長は出席して意見を述べることができる。」と規定し、原則として毎回出席している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 会議体の実施状況（ 年 12 回 ） ・ 会議体への管理者の参画の有無および回数（ <input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無 ）（ 年 12 回 ） ・ 会議体に係る内部規程の公表の有無（ 有 <input checked="" type="radio"/> 無 ） ・ 公表の方法 | | | |
| 病院の管理運営状況を監督する会議体の名称：理事会 | | | |
| 会議体の委員名簿 | | | |
| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 利害関係 |
| 大 津 欣 也 | 理事長（内部統制担当役員） | ○ | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 |
| 望 月 直 樹 | 理事・研究所長 | | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 |
| 尾 崎 裕 | 大阪商工会議所会頭 | | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 |
| 瀧 原 圭 子 | 大阪大学キャンパスライフ健康 支援センター教授 | | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 |

(注) 会議体の名称及び委員名簿は理事会等とは別に会議体を設置した場合に記載すること。

規則第 15 条の 4 第 1 項第 4 号に掲げる医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の
情報提供を受け付ける窓口の状況

| 窓口の状況 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none">・ 情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 通報件数 (年 0 件)・ 窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関する必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)・ 周知の方法 <p>役職員一斉メール・電子カルテ周知事項掲載</p> |

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 果たしている役割に関する情報発信

| | |
|---|--------------------------------------|
| ① 果たしている役割に関する情報発信の有無 | <input checked="" type="radio"/> 有・無 |
| <p>・ 情報発信の方法、内容等の概要</p> <p>ホームページで循環器に関する主な疾患について、その原因や治療法などについて分かりやすく紹介している。</p> <p>定期的に市民公開講座を開催し、循環器疾患かかる情報提供・啓蒙活動を実施している。</p> | |

2 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

| | |
|--|--------------------------------------|
| ① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無 | <input checked="" type="radio"/> 有・無 |
| <p>・ 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要</p> <p>各診療科にコンサルティングドクターを設けており、速やかな連携を図っている。</p> | |